

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成23年4月1日

(第103期) 至 平成24年3月31日

愛知電機株式会社

E01748

第103期（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

愛知電機株式会社

目 次

	頁
第103期 有価証券報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	9
第2 【事業の状況】	10
1 【業績等の概要】	10
2 【生産、受注及び販売の状況】	11
3 【対処すべき課題】	12
4 【事業等のリスク】	12
5 【経営上の重要な契約等】	12
6 【研究開発活動】	13
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	14
第3 【設備の状況】	15
1 【設備投資等の概要】	15
2 【主要な設備の状況】	15
3 【設備の新設、除却等の計画】	16
第4 【提出会社の状況】	17
1 【株式等の状況】	17
2 【自己株式の取得等の状況】	19
3 【配当政策】	20
4 【株価の推移】	20
5 【役員の状況】	21
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	24
第5 【経理の状況】	31
1 【連結財務諸表等】	32
2 【財務諸表等】	66
第6 【提出会社の株式事務の概要】	88
第7 【提出会社の参考情報】	89
1 【提出会社の親会社等の情報】	89
2 【その他の参考情報】	89
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	90
監査報告書	
内部統制報告書	
確認書	

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成24年6月28日

【事業年度】 第103期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

【会社名】 愛知電機株式会社

【英訳名】 AICHI ELECTRIC CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 山 田 功

【本店の所在の場所】 愛知県春日井市愛知町1番地

【電話番号】 (0568) 31-1111 (代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画部経理グループ長 鈴木 祐 二

【最寄りの連絡場所】 愛知県春日井市愛知町1番地

【電話番号】 (0568) 31-1111 (代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画部経理グループ長 鈴木 祐 二

【縦覧に供する場所】 愛知電機株式会社 東京支社
(東京都中央区入船三丁目10番9号)

愛知電機株式会社 関西支社
(大阪市北区曾根崎一丁目2番6号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第99期	第100期	第101期	第102期	第103期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高 (百万円)	63,849	58,542	54,018	62,185	71,932
経常利益 (百万円)	2,262	430	1,703	4,308	6,629
当期純利益又は 当期純損失(△) (百万円)	1,541	△414	458	2,667	4,523
包括利益 (百万円)	—	—	—	2,212	4,405
純資産額 (百万円)	28,738	27,254	27,488	29,361	33,444
総資産額 (百万円)	70,892	62,160	61,954	66,799	73,629
1株当たり純資産額 (円)	589.25	559.51	566.21	604.57	688.05
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△) (円)	32.03	△8.62	9.54	55.42	94.00
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	40.0	43.3	44.0	43.6	45.0
自己資本利益率 (%)	5.5	△1.5	1.7	9.5	14.5
株価収益率 (倍)	7.37	△19.03	23.27	5.68	3.99
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,192	1,189	4,399	3,316	4,324
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△3,800	△1,222	△847	△3,090	△4,148
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△2,615	△783	△1,742	△554	△309
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	11,063	10,240	12,054	11,637	11,513
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用人員) (人)	1,970 (122)	1,977 (111)	1,981 (95)	2,025 (100)	2,114 (208)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第99期	第100期	第101期	第102期	第103期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高 (百万円)	26,980	27,545	27,465	32,110	36,197
経常利益 (百万円)	779	1,356	2,307	3,271	3,424
当期純利益 (百万円)	476	659	1,421	1,860	1,831
資本金 (百万円)	4,053	4,053	4,053	4,053	4,053
発行済株式総数 (株)	48,252,061	48,252,061	48,252,061	48,252,061	48,252,061
純資産額 (百万円)	22,354	22,346	23,577	24,830	26,144
総資産額 (百万円)	41,844	39,475	39,870	43,436	45,926
1株当たり純資産額 (円)	464.12	464.03	489.65	515.69	543.02
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	5.50 (2.50)	6.00 (3.00)	6.50 (3.00)	7.50 (3.50)	11.50 (4.00)
1株当たり当期純利益 (円)	9.89	13.69	29.51	38.65	38.04
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	53.4	56.6	59.1	57.2	56.9
自己資本利益率 (%)	2.1	3.0	6.2	7.7	7.2
株価収益率 (倍)	23.86	11.98	7.52	8.15	9.86
配当性向 (%)	55.6	43.8	22.0	19.4	30.2
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用人員) (人)	729	762	771	790	793 (118)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

3. 平成24年3月期の1株当たり配当額11円50銭(1株当たり中間配当額4円)には、創立70周年記念配当3円を含んでおります。

4. 平成20年3月期から平成23年3月期までの、平均臨時雇用人員については、当該臨時従業員の総数が従業員数の100分の10未満であるため、記載しておりません。

2 【沿革】

- 昭和17年2月 川口将一の個人創業。
- 〃 17年5月 (株)愛知電機工作所に組織変更を行い、資本金10万円とした。
名古屋市東区水筒先町に本社及び工場をおき変圧器、電動機の販売・修理開始。
 - 〃 22年8月 長野工場建設、本社工場にて柱上変圧器製造・販売開始。
 - 〃 23年11月 岐阜工場建設。
 - 〃 34年6月 現本社工場建設。
 - 〃 35年6月 本社を春日井市松河戸町に移転。
 - 〃 35年12月 岐阜、長野両工場はそれぞれ岐阜愛知電機(株)、長野愛知電機(株)として分離独立。
 - 〃 36年5月 回転機工場建設、小形モータ及び応用製品の製造・販売開始。
 - 〃 36年10月 株式を名古屋証券取引所市場第二部に上場。
 - 〃 38年6月 販売会社 愛知電機商事(株)設立。
 - 〃 39年3月 米国エマソン・エレクトリック・カンパニーと合弁会社アイチエマソン電機(株)を設立し、ハーメティックモータ部門を分離独立。
 - 〃 43年4月 小形モータ等の製造会社 恵那愛知電機(株)設立。
 - 〃 45年10月 名古屋証券取引所市場第一部に指定替。
 - 〃 55年3月 本社所在地愛知県春日井市愛知町1番地に町名地番変更。
 - 〃 61年1月 決算期を5月31日から3月31日に変更。
 - 〃 61年4月 愛知電機(株)に商号変更。
- 平成11年2月 プリント配線板の製造・販売会社(株)エーネット設立。
プリント配線板の製造・販売会社(株)愛工機器製作所を子会社化。
- 〃 12年10月 愛知電機商事(株)と輸送部門担当会社 愛電産業(株)が合併し、愛電商事(株)へ商号変更。
 - 〃 13年10月 温水洗浄便座の製造・開発に係わる事業について、東陶機器(株) (現 TOTO(株)) 及び小糸工業(株)との共同新設分割により(株)パンウォッシュレットを設立。
 - 〃 14年10月 (株)愛工機器製作所と(株)エーネットが、(株)愛工機器製作所を存続会社として合併。
 - 〃 14年11月 アイチエマソン電機(株)を100%子会社化し、アイチエレック(株)へ商号変更。また、同社の子会社である白鳥アイチエマソン(株)は、白鳥アイチエレック(株)へ商号変更。
 - 〃 16年12月 中国江蘇省蘇州市に蘇州駐在員事務所を開設。
 - 〃 17年3月 中国江蘇省蘇州市にハーメティックモータの製造・販売会社 蘇州愛知科技有限公司を設立。
 - 〃 17年10月 恵那愛知電機(株)と同社の子会社である(有)アイゼンが、恵那愛知電機(株)を存続会社として合併。
 - 〃 19年3月 TOTOウォッシュレットテクノ(株) (平成18年10月(株)パンウォッシュレットが商号変更) の当社保有株式を東陶機器(株) (現 TOTO(株)) へ売却し、合弁を解消。
 - 〃 23年7月 中国江蘇省蘇州市に、アイチエレック(株)及びアモイタングステン (中国) 並びに昆山海峡發展基金 (中国) との合弁により、電動コンプレッサー用モータ、駆動用モータの製造・販売会社 蘇州愛知高斯電機有限公司を設立。

3 【事業の内容】

当社グループは当社、子会社11社及び関連会社3社で構成され、主に電力機器事業及び回転機事業を行っております。

各事業における当社及び関係会社の位置づけ及びセグメントとの関連は次のとおりであります。

なお、電力機器及び回転機は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

〔電力機器〕

当該事業に係る製品・工事は、各種変圧器、配電盤等、電力設備工事等があります。

各種変圧器、配電盤は、当社が製造・販売するほか、小形変圧器は子会社岐阜愛知電機㈱、配電盤は関連会社大垣電機㈱が製造・販売しております。

工事関連は、電力設備工事を当社が行っているほか、子会社岐阜愛知電機㈱、長野愛知電機㈱において、発電電・送電・通信関係の工事を行っております。

主な販売先は中部電力㈱(その他の関係会社)をはじめとする電力会社であります。また、当社、子会社及び関連会社は、一般民需向け製品の一部をグループ製品の販売総代理店である子会社愛電商事㈱を通じて販売しております。

当社は、製品・部品・材料の一部について、子会社愛電商事㈱、寿工業㈱、岐阜愛知電機㈱、長野愛知電機㈱及び関連会社愛知金属工業㈱、大垣電機㈱より仕入れております。

〔回転機〕

当該事業に係る製品は、小形モータ（ハーメティックモータ等）、シャッター開閉機、アクチュエータ、プリント配線板等があります。

小形モータ、シャッター開閉機、アクチュエータは、当社が製造・販売しております。なお、小形モータ、シャッター開閉機の一部は子会社恵那愛知電機㈱、アクチュエータの一部は子会社蘇州愛知科技有限公司で製造しております。

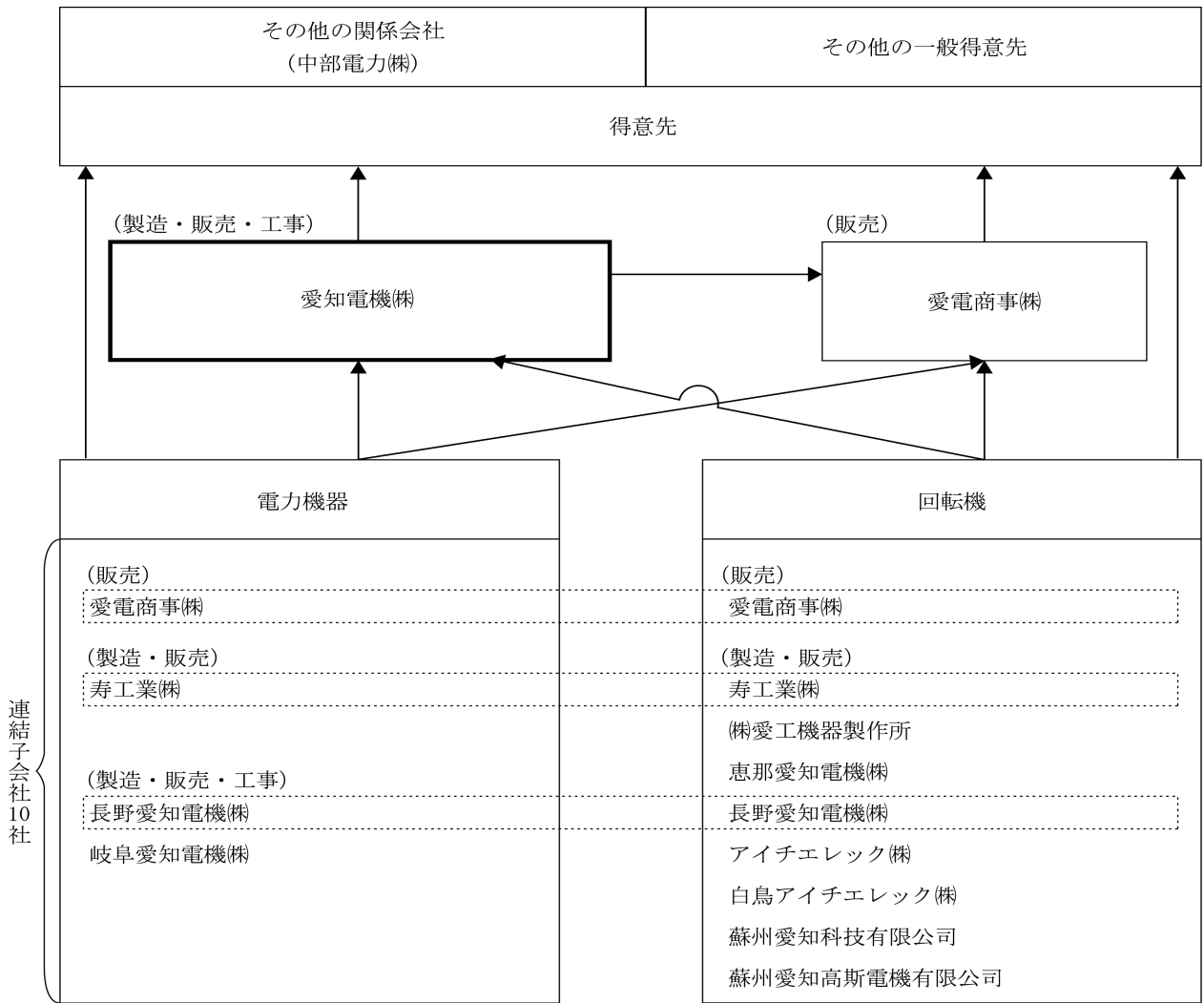
ハーメティックモータは、子会社アイチエレクトリック㈱、蘇州愛知科技有限公司、蘇州愛知高斯電機有限公司が製造・販売しております。なお、製造の一部は子会社白鳥アイチエレクトリック㈱、販売の一部は当社で行っております。

プリント配線板は、子会社㈱愛工機器製作所が製造・販売しております。

当社及び子会社は、当該事業の製品の一部をグループ製品の販売総代理店である子会社愛電商事㈱を通じて販売しております。

当社及び子会社アイチエレクトリック㈱は、製品・部品・材料の一部について、子会社愛電商事㈱、恵那愛知電機㈱、寿工業㈱、長野愛知電機㈱、蘇州愛知科技有限公司より仕入れております。

以上を事業系統図で示すと次のとおりであります。



*非連結子会社：1社
電子ブロック機器製造(株)

*関連会社：3社
愛知金属工業(株)、大垣電機(株) 他

- (注) 1. は、持分法適用会社であります。
2. 蘇州愛知高斯電機有限公司（平成23年7月設立）は、当連結会計年度より新たに連結の範囲に含めております。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な 事業内容	議決権の所有 割合又は被所有 割合(%)	関係内容
(連結子会社) ㈱愛工機器製作所 (注) 3、5	愛知県春日井市	486	回転機	100.0	当社の販売するプリント配線板等の製品を同社で製造しております。 また、当社が資金の貸付及び担保提供ならびに債務保証をしております。 役員の兼任 2人
アイチエレクトク㈱ (注) 3、5	愛知県春日井市	400	回転機	100.0	当社の販売するハーメティックモータ等の製品を同社で製造しております。 また、当社が資金の貸付をしております。 役員の兼任 3人 (役員2人、従業員1人)
愛電商事㈱	愛知県春日井市	80	電力機器 回転機	100.0 (15.0)	当社製品の一部を同社を通じて販売しており、当社の使用する材料等を同社から購入しております。 また、当社の物流部門を同社で担当しております。 役員の兼任 2人
恵那愛知電機㈱	岐阜県恵那市	45	回転機	100.0	当社の販売する小形モータ等の製品を同社で製造しており、同社の使用する材料の一部を当社が支給しております。 また、当社が債務保証をしております。 役員の兼任 3人 (役員2人、従業員1人)
岐阜愛知電機㈱	岐阜県岐阜市	40	電力機器	100.0	当社の販売する変圧器製品の一部を同社で製造しており、同社の使用する材料の一部を当社が支給しております。 役員の兼任 2人 (役員1人、従業員1人)
寿工業㈱	愛知県春日井市	90	電力機器 回転機	81.1 (29.1)	当社の製造する変圧器、小形モータ製品の部品を同社で製造しております。 役員の兼任 2人
白鳥アイチエレクトク㈱	岐阜県郡上市	40	回転機	100.0 (100.0)	アイチエレクトク㈱の販売するハーメティックモータ等の製品の一部を同社で製造しており、同社の使用する材料の一部をアイチエレクトク㈱が支給しております。 役員の兼任 3人 (役員2人、従業員1人)
長野愛知電機㈱	長野県長野市	80	電力機器 回転機	100.0 (33.1)	当社の製造する小形モータ等の部品を同社で製造しております。 また、当社が債務保証をしております。 役員の兼任 2人
蘇州愛知科技有限公司 (注) 3、5	中国江蘇省蘇州市	2,600	回転機	100.0 (60.0)	当社の製造する介護用機器の部品の一部を同社で製造しております。 また、当社が債務保証をしております。 役員の兼任 2人
蘇州愛知高斯電機有限公司 (注) 5、6	中国江蘇省蘇州市	6 百万米ドル	回転機	55.0 (35.0)	役員の兼任 2人

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な 事業内容	議決権の所有 割合又は被所 有割合(%)	関係内容
(持分法適用関連会社) 愛知金属工業(株)	愛知県春日井市	120	電力機器	47.5 (0.9)	当社の販売する変圧器製品の部品を同社で製造しております。 役員の兼任 1人 (従業員1人)
大垣電機(株)	岐阜県養老郡養老町	89	電力機器	33.5	当社の販売する配電盤製品の一部を同社で製造しております。 役員の兼任 2人
(その他の関係会社) 中部電力(株) (注) 4	名古屋市東区	430,777	電気事業	[24.2]	当社電力機器製品の販売先 役員の兼任 1人

- (注) 1. 「主要な事業内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。
2. 「議決権の所有割合又は被所有割合」の欄の()内数値は間接所有割合(内数)を、[]内数値は被所有割合を表しております。
3. (株)愛工機器製作所、アイチエレクトリック(株)及び蘇州愛知科技有限公司については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

(株)愛工機器製作所)	(1) 売上高	8,535百万円
	(2) 経常利益	270
	(3) 当期純利益	248
	(4) 純資産額	1,885
	(5) 総資産額	9,602
(アイチエレクトリック(株))	(1) 売上高	11,697百万円
	(2) 経常利益	664
	(3) 当期純利益	534
	(4) 純資産額	3,543
	(5) 総資産額	12,422
(蘇州愛知科技有限公司)	(1) 売上高	10,877百万円
	(2) 経常利益	1,542
	(3) 当期純利益	1,348
	(4) 純資産額	4,456
	(5) 総資産額	8,063

4. 有価証券報告書提出会社であります。
5. 特定子会社に該当しております。
6. 蘇州愛知高斯電機有限公司(平成23年7月設立)は、当連結会計年度より新たに連結の範囲に含めております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
電力機器	785 (145)
回転機	1,231 (58)
全社(共通)	98 (5)
合計	2,114 (208)

- (注) 1. 従業員数は就業人員数(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。なお、臨時従業員には、期間社員及びパートタイマーを含み、派遣社員を除いております。
2. 全社(共通)として記載している従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
793 (118)	43.1	18.2	6,126

セグメントの名称	従業員数(人)
電力機器	573 (118)
回転機	147 (—)
全社(共通)	73 (—)
合計	793 (118)

- (注) 1. 従業員数は就業人員数(当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む。)であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。なお、臨時従業員には、期間社員及びパートタイマーを含み、派遣社員を除いております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 全社(共通)として記載している従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社グループには、愛知電機労働組合(組合員数762人)、恵那愛知電機労働組合(組合員数97人)、岐阜愛知電機労働組合(組合員数52人)、長野愛知電機労働組合(組合員数102人)から構成する愛知電機関連企業労働組合連合会が組織されております。なお、労使関係において特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、昨年3月の東日本大震災以降、緩やかに持ち直してきましたが、その後の欧州の債務問題、歴史的な円高、タイの洪水被害などの影響を受け、依然として厳しい状況が続きました。

当社グループにおきましては、東日本大震災やタイの洪水被害により、部材の調達など一部で影響を受けましたが、中国のエアコン市場拡大などにより、事業環境は堅調に推移しました。

このような状況下において、当社グループは、中期経営計画「Transform & Actuate 変化と行動 フェーズⅡ」のもと、品質の絶対的向上やリードタイムの短縮など、メーカーとしてもものづくりのレベルアップに努めるとともに、海外事業の拡大、新製品・新事業の創出に取り組んでまいりました。また、子会社の愛工機器製作所と岐阜愛知電機の2社を100%子会社化するなど、グループ経営の強化を進めました。

これらの施策に加え、製販一体となった営業活動やVE・CDなどを積極的に進めた結果、当連結会計年度の業績につきましては、電力機器事業、回転機事業ともに堅調に推移しました。売上高につきましては、前連結会計年度に比べ15.7%増の719億3千2百万円、経常利益は前連結会計年度に比べ53.9%増の66億2千9百万円、当期純利益は69.6%増の45億2千3百万円となりました。

セグメント別の状況につきましては、次のとおりです。

(販売の状況)

電力機器事業の売上高は、前連結会計年度に比べ11.3%増の318億9百万円となりました。

制御機器が減収となりましたが、主力の電力会社向け小形変圧器が堅調に推移したことに加え、一般民需向けトッランナー変圧器や海外での工事案件などが伸びたことにより、増収となりました。

回転機事業の売上高は、前連結会計年度に比べ19.4%増の401億2千2百万円となりました。

プリント配線板が前連結会計年度を下回りましたが、介護用機器が堅調に推移したことに加え、小形モータが中国での需要増を背景に伸びたことにより、大幅な増収となりました。

(新製品・新事業への取り組み状況)

電力機器事業ではスマートグリッド関連製品の本格普及に備え、次世代配電機器実証試験設備を導入しました。これにより電圧変動対策を進め、自動電圧調整機器などの開発、製品化をいっそう進めております。このほか、変圧器製品の海外展開を目指し、プロジェクトを発足させるなど、推進体制を強化しております。

回転機事業では、中国市場をターゲットにした取り組みとして、空調機用インバータモジュールを開発し、販売を開始しました。また、成長が期待される電気自動車用モータ市場への参入を目指し、昨年7月に合弁会社蘇州愛知高斯電機を設立し、本格稼働に向けての準備を進めております。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1億2千3百万円減少し、115億1千3百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、43億2千4百万円（前年同期33億1千6百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益66億6千6百万円、非資金費用である減価償却費21億5百万円、仕入債務の増加額33億1千7百万円などの資金の増加と売上債権の増加額45億6千8百万円、たな卸資産の増加額9億1千9百万円、法人税等の支払額21億9千4百万円などの資金の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、41億4千8百万円（前年同期30億9千万円の支出）となりました。これは主に、有価証券の増加額20億9百万円、有形固定資産の取得による支出15億6千6百万円、短期貸付けによる支出5億円などの資金の減少によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、3億9百万円（前年同期5億5千4百万円の支出）となりました。これは主に、長期借入れによる収入25億円、短期借入金の増加額9億8百万円などの資金の増加と長期借入金の返済による支出33億6千3百万円、配当金の支払額3億8千5百万円などの資金の減少によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
電力機器	28,602	6.6
回転機	38,952	19.8
合計	67,554	13.8

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
電力機器	31,625	7.6	2,172	△7.8
回転機	39,813	17.9	2,674	△10.4
合計	71,438	13.1	4,847	△9.2

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
電力機器	31,809	11.3
回転機	40,122	19.4
合計	71,932	15.7

- (注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
中部電力㈱	19,030	30.6	18,832	26.2

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループを取り巻く経営環境は、先行き不透明な状況が続きますが、中期経営計画「Transform & Actuate 変化と行動 フェーズⅡ」のもと、引き続き品質の絶対的向上、リードタイムの短縮、人材の育成などの諸課題に取り組み、メーカーとしての体質強化に努めていきます。また、基本戦略「NEXT STAGE 27」で定めた方向性に沿って、スマートグリッド関連製品や新興国市場など、今後成長が見込まれる市場分野への取り組みをいっそう推進していきます。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 特定顧客への依存

当社グループの事業は、変圧器及びその他周辺機器からなる電力機器、小形モータ及びモータ応用製品並びに電子機器等からなる回転機の製造・販売を主な内容としております。

電力機器事業では電力会社、回転機事業では電機及び機械メカ等の顧客を中心に販売をしており、両事業とも特定の顧客に対する販売依存度が高い傾向にあります。

今後、電力会社の設備投資計画の変動や顧客の海外生産の拡大等による市場環境の変化は、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(2) 子会社の業績動向

当社グループは、各社の独自事業に加え、製造、販売、部品供給などグループ会社間の協業によりグループ経営を行っており、連結子会社の業績が大きく変動した場合は、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(3) 金利の変動

当社グループの当連結会計年度末現在の有利子負債残高は117億8千2百万円であります。

一部の長期資金につきましては、固定金利での資金調達をするなど金利コストの安定化をはかっておりますが、今後の市場金利の変動は、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(4) 原材料価格の変動

原材料価格の変動は、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

平成23年5月19日、当社及び連結子会社アイチエレクトリック(株)、アモイタンングステン(英文: Xiamen Tungsten Co., Ltd.)、昆山海峡発展基金(英文: CROSS-STRAIT DEVELOPMENT FUND)との間で、電動コンプレッサー用モータ及び駆動用モータの製造・販売を行う新会社の設立に関する合弁契約を締結いたしました。

(合弁会社の概要)

- | | |
|-----------|--|
| (1) 商号 | 蘇州愛知高斯電機有限公司
(英文: Suzhou Aichi Gauss Motor Co., Ltd.) |
| (2) 代表者 | 董事長 宇佐美 和彦 |
| (3) 所在地 | 中国江蘇省蘇州市 |
| (4) 登録資本金 | 600万米ドル |
| (5) 出資比率 | 当社 20%、アイチエレクトリック(株) 35%、
アモイタンングステン 25%、昆山海峡発展基金 20% |
| (6) 事業の内容 | 電動コンプレッサー用モータ、駆動用モータの製造・販売 |
| (7) 設立年月日 | 平成23年7月4日 |

6 【研究開発活動】

当社グループは、顧客ニーズと将来の製品・技術動向を見据え、多岐にわたる分野において研究開発に取り組んでおります。

当社においては、平成23年度開発方針として、「品質の絶対的向上」「新製品・新事業創出に向けた対応強化」「市場競争力の強化」「技術力の向上」を掲げ、研究開発を推進いたしました。

また、一昨年度に立ち上げたスマートグリッド検討会の検討結果として、本社構内に次世代配電機器実証設備が完成しました。今後、太陽光発電などによる系統への影響評価とともに、開発した製品の機能検証を行なってまいります。

グループ各社においても、それぞれの事業に対応した研究開発を進めており、当連結会計年度における研究開発費の総額は7億2千6百万円であります。

セグメントごとの研究開発活動の内容及び成果は次のとおりであります。

(1) 電力機器

当事業では、電力会社向けの変圧器、制御・通信装置、電力変換装置の各分野に注力しました。

今年度に市場投入した製品は、「電力系統自動切替装置（PAC装置）」「FNU」などがあります。

推進中の製品開発は、「低圧自動電圧調整器」「第二世代D配変盤用保護制御ユニット」「高機能子局」などがあります。

(2) 回転機

当事業では、介護機器、住設機器、粉体機器の各分野に注力しました。

今年度に市場投入した製品は、「次世代車用普通充電器」「空調機用駆動モジュール」「小型乾燥機」などがあります。

推進中の製品開発は、「小型発電機」「EV・PHV充電システム」「介護用ベッド電装品」などがあります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たって、見積りが必要な事項については過去の実績等を踏まえて合理的な基準に基づき算定しております。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は719億3千2百万円となり、前連結会計年度に比べ97億4千6百万円（15.7%）の増加となりました。セグメント別では、電力機器事業は制御機器が減収となりましたが、主力の電力会社向け小形変圧器が堅調に推移したことに加え、一般民需向けトッランナー変圧器や海外での工事案件などが伸びたことにより、318億9百万円と前連結会計年度に比べ32億3千9百万円（11.3%）増加し、回転機事業はプリント配線板が前期を下回りましたが、介護用機器が堅調に推移したことに加え、小形モータが中国での需要増を背景に伸びたことにより、401億2千2百万円と前連結会計年度に比べ65億7百万円（19.4%）の増加となりました。

利益面につきましては、電力機器事業、回転機事業ともに売上が増加したことに加え、製販一体となった営業活動やVE・CDなどを積極的に進めた結果、経常利益は66億2千9百万円と前連結会計年度に比べ23億2千1百万円（53.9%）の増加となりました。当期純利益につきましては、45億2千3百万円となり、前連結会計年度に比べ18億5千6百万円（69.6%）の増加となりました。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因については、第2事業の状況4事業等のリスクに記載のとおりであります。

(4) 当連結会計年度の財政状態の分析

当連結会計年度末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ68億3千万円増加し736億2千9百万円となりました。

流動資産は、512億2千6百万円と前連結会計年度末に比べ74億1千6百万円増加しました。これは主に、受取手形及び売掛金の増加39億8千1百万円、有価証券の増加20億1千万円、たな卸資産の増加10億9千4百万円によるものであります。

固定資産は、224億3百万円と前連結会計年度末に比べ5億8千5百万円減少しました。これは主に、投資その他の資産の減少3億9千5百万円によるものであります。

流動負債は、285億7千8百万円と前連結会計年度末に比べ31億3千7百万円増加しました。これは主に、支払手形及び買掛金の増加34億9百万円、短期借入金の増加9億8百万円、1年内返済予定の長期借入金の減少7億7千5百万円、未払法人税等の減少3億7千8百万円によるものであります。

固定負債は、116億7百万円と前連結会計年度末に比べ3億9千万円減少しました。

純資産合計は、334億4千4百万円と、前連結会計年度末に比べ40億8千3百万円増加しました。これは主に、当期純利益の計上等により利益剰余金が41億3千8百万円増加したことによります。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.4ポイント増加し、45.0%となりました。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当連結会計年度における資本の財源及び資金の流動性については、第2事業の状況1業績等の概要(2)キャッシュ・フローに記載のとおりであります。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループの経営者の問題認識と今後の方針については、第2事業の状況3対処すべき課題に記載のとおりであります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、当連結会計年度において総額18億8千3百万円の設備投資を実施しました。セグメントごとの設備投資の状況は以下のとおりであります。

なお、設備投資額については、有形固定資産のほか、無形固定資産も含めて表示しております。

(1) 電力機器

次世代配電機器実証試験設備等の研究開発施設の拡充やその他生産設備の維持更新など、6億3千9百万円の設備投資を実施しました。

(2) 回転機

小形モータ生産設備の増強やその他生産設備の維持更新など、11億8千8百万円の設備投資を実施しました。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他		合計
本社・工場 (愛知県春日井市)	電力機器 回転機 管理部門	電力機器及び 回転機製品の 生産設備、そ の他設備	2,742	742	798 (169,481)	51	343	4,678	760 [114]

(注) 1. 帳簿価額「その他」には、建設仮勘定の金額を含まず、無形固定資産を含めて記載しております。

2. [] 内数値は、臨時従業員数で外数であります。

3. 上記のほか、連結会社以外からの主な賃借設備の内容は、次のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料 (百万円)
本社・工場 (愛知県春日井市)	電力機器 回転機	情報化機器	14

(2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他		合計
㈱愛工機 器製作所	本社・春日井工場 (愛知県春日井市)	回転機	プリント配 線板の生産 設備	1,813	85	—	482	7	2,388	105 [2]
㈱愛工機 器製作所	中津川第1・2工 場 (岐阜県中津川市)	回転機	プリント配 線板の生産 設備	808	122	343 (22,941)	59	9	1,343	179 [4]
アイチエ レック㈱	本社・工場 (愛知県春日井市)	回転機	ハーメテ ックモータ の生産設備	63	263	451 (14,787)	7	38	824	177 [6]
愛電商事 ㈱	本社・営業本部 (愛知県春日井市)	電力機器 回転機	電力機器及 び回転機部 門の輸送関 係設備	10	0	—	—	12	22	77 [4]
恵那愛知 電機㈱	本社・工場 (岐阜県恵那市)	回転機	小形モータ の生産設備	44	17	162 (120,643)	35	3	263	107 [24]
岐阜愛知 電機㈱	本社・建設事業部 (岐阜県岐阜市)	電力機器	工事部門設 備	84	12	141 (2,353)	—	7	246	27 [1]
岐阜愛知 電機㈱	電機事業部 (岐阜県各務原市)	電力機器	変圧器の生 産設備	127	26	149 (8,528)	—	11	314	47 [19]

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
寿工業(株)	本社・工場 (愛知県春日井市)	電力機器 回転機	変圧器部品 及び小形モ ータ部品の 生産設備	75	41	121 (15,235)	—	16	255	69 [10]
白鳥アイ チエレッ ク(株)	本社・工場 (岐阜県郡上市)	回転機	ハーメティ ックモータ の生産設備	157	44	128 (29,052)	—	2	333	90 [9]
長野愛知 電機(株)	本社・工場 (長野県長野市)	電力機器 回転機	工事部門設 備及び小形 モータ部品 等の生産設 備	317	82	82 (15,161)	—	7	491	139 [8]

- (注) 1. 帳簿価額「その他」には、建設仮勘定の金額を含まず、無形固定資産を含めて記載しております。
2. [] 内数値は、臨時従業員数で外数であります。
3. 上記のほか、(株)愛工機器製作所(本社・春日井工場)については、提出会社が土地(12,998㎡)を貸与しており、その借地権として300百万円を設定しております。
4. 上記のほか、連結会社以外からの主な貸借設備の内容は、次のとおりであります。

会社名	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料 (百万円)
(株)愛工機器製作所	回転機	生産設備	202

5. 上記のほか、連結会社以外への主な貸借設備として、愛電商事(株)が貸与している土地318百万円(847㎡)があります。

(3) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地使用権 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
蘇州愛知 科技有限 公司	本社・工場 (中国江蘇省蘇州 市)	回転機	ハーメティ ックモータ の生産設備	322	976	38 (28,838)	1	222	1,561	236
蘇州愛知 高斯電機 有限公司	本社・工場 (中国江蘇省蘇州 市)	回転機	事務所設備 等	—	—	—	—	5	5	19

(注) 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含まず、無形固定資産を含めて記載しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定		備考
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
愛知電機(株)	本社・工場 (愛知県春日井市)	電力機器	変圧器・制御機器 生産設備	671	—	自己資金	平成24年 4月	平成25年 3月	—
蘇州愛知科 技有限公司	本社・工場 (中国江蘇省蘇州市)	回転機	ハーメティックモ ータの生産設備	410	—	自己資金	平成24年 4月	平成24年 12月	—

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	119,561,000
計	119,561,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末 現在発行数 (株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成24年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	48,252,061	48,252,061	名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数1,000株
計	48,252,061	48,252,061	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成12年4月1日～ 平成13年3月31日(注)	△439	48,252	—	4,053	—	2,199

(注) 発行済株式総数の減少は、利益による株式の消却を実施したことによるものであります。

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況 (1単元の株式数1,000株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	20	13	65	12	—	2,265	2,375	—
所有株式数 (単元)	—	11,929	88	24,473	1,177	—	10,414	48,081	171,061
所有株式数 の割合(%)	—	24.81	0.18	50.90	2.45	—	21.66	100.00	—

(注) 1. 自己株式105,027株は、「個人その他」に105単元、「単元未満株式の状況」に27株含まれております。

2. 上記「その他の法人」の中には、証券保管振替機構名義の株式が4単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
中部電力株式会社	名古屋市東区東新町1	11,632	24.10
TSUCHIYA株式会社	大垣市神田町2-55	5,000	10.36
古河電気工業株式会社	東京都千代田区丸の内2-2-3	4,039	8.37
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	2,233	4.62
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,766	3.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	東京都中央区晴海1-8-11	1,515	3.13
中央三井信託銀行株式会社 (常任代理人 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)	東京都港区芝3-33-1 (東京都中央区晴海1-8-11)	1,014	2.10
株式会社川口興産	名古屋市東区葵1-13-18	1,000	2.07
ビービーエイチ フィデリテイ ロープライズド ストック ファ ンド(プリンシパル オール セ クター サポートフォリオ) (常任代理人 株式会社三菱東京U FJ銀行)	82 DEVONSHIRE ST BOSTON MASSACHUSETTS 02109360582 (東京都千代田区丸の内2-7-1)	1,000	2.07
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1	879	1.82
計	—	30,079	62.33

(注) 1. 中央三井信託銀行株式会社は、平成24年4月1日をもって住友信託銀行株式会社及び中央三井アセット信託銀行株式会社と合併し、三井住友信託銀行株式会社となりました。

2. 三井住友トラスト・ホールディングス株式会社から平成24年4月18日付で提出された大量保有報告書の変更報告書(No.2)により、平成24年4月13日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として平成24年3月31日現在の実質所有株式数の確認ができないため、株主名簿上の所有株式数を上記大株主の状況に記載しております。

なお、当該変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-1	2,529	5.24

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 105,000	—	単元株式数1,000株
	(相互保有株式) 普通株式 79,000	—	同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 47,897,000	47,897	同上
単元未満株式	普通株式 171,061	—	—
発行済株式総数	48,252,061	—	—
総株主の議決権	—	47,897	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が4,000株(議決権4個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が27株、相互保有株式が479株含まれております。

② 【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
愛知電機㈱	春日井市愛知町1	105,000	—	105,000	0.21
愛知亜鉛鍍金㈱	春日井市松河戸町4170	22,000	—	22,000	0.04
愛知金属工業㈱	春日井市大手田西町3-13-18	55,000	—	55,000	0.11
大垣電機㈱	岐阜県養老郡養老町西岩道414	2,000	—	2,000	0.00
計	—	184,000	—	184,000	0.38

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	2,638	0
当期間における取得自己株式	1,004	0

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (一)	—	—	—	—
保有自己株式数	105,027	—	106,031	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、安定配当の継続を利益配分に関する基本方針とし、業績の変化や今後の事業展開等を総合的に勘案した配当の実施を考えております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の配当金につきましては、この基本方針のもと、業績及び今後の業況等を勘案して、創立70周年記念配当3円を加え、年間配当金は1株当たり11円50銭(中間配当1株当たり4円を含む)としております。

内部留保資金につきましては、設備投資及び研究開発投資並びに新規事業投資として有効かつ効率的に活用し、企業体質の強化に努めてまいります。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成23年10月31日 取締役会決議	192	4.00
平成24年6月28日 定時株主総会決議	361	7.50

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第99期	第100期	第101期	第102期	第103期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高 (円)	435	284	293	378	384
最低 (円)	222	125	155	202	242

(注) 株価は、名古屋証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高 (円)	300	295	316	324	348	384
最低 (円)	249	254	273	292	316	333

(注) 株価は、名古屋証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)		山田 功	昭和18年9月6日生	昭和42年4月 当社入社 平成元年10月 社長室総合企画室長 3年6月 取締役社長室長兼総合企画室長 9年6月 取締役機電事業本部副本部長 兼電装事業部長 10年10月 取締役営業本部副本部長 11年2月 常務取締役管理本部副本部長 11年6月 常務取締役管理本部長 12年6月 常務取締役営業本部長 13年6月 常務取締役管理担当 14年6月 専務取締役経営管理部・電力事業部 担当 17年6月 取締役社長（現任）	(注)3	50
専務取締役 (代表取締役)	電力事業部管 掌	佐藤 徹	昭和25年2月14日生	昭和47年4月 当社入社 平成10年10月 電力事業部配電自動化開発室長 12年6月 理事電力事業部配電システム部長 13年6月 取締役電力事業部長 14年6月 取締役開発・環境事業部長 17年6月 常務取締役開発・環境事業部、北海 道支社、東北支社管掌兼開発・環境 事業部長 19年6月 常務取締役電力事業部管掌 21年6月 長野愛知電機㈱取締役社長（現任） 23年6月 専務取締役電力事業部管掌（現任）	(注)3	25
常務取締役	電力事業部長	久須美 寿彦	昭和22年7月11日生	昭和45年4月 当社入社 平成10年10月 電力事業部大形変圧器部長 13年1月 電力事業部設計部長 13年7月 電力事業部変圧器設計グループ長 14年7月 理事電力事業部長 15年6月 取締役電力事業部長 23年6月 常務取締役電力事業部長（現任）	(注)3	12
取締役	電力事業部副 事業部長兼環 境エネルギー 技術部・制御 技術部管掌兼 開発部長	安藤 誠	昭和27年6月11日生	昭和50年4月 中部電力㈱入社 平成10年7月 同社関連事業部部長 11年7月 同社制御通信部業務グループ長 15年7月 同社IT本部情報通信事業グループ 長 17年6月 当社取締役開発・環境事業部副事業 部長 19年6月 取締役電力事業部副事業部長 21年6月 取締役電力事業部副事業部長兼開発 部長 23年6月 取締役電力事業部副事業部長兼環境 エネルギー技術部・制御技術部管掌 兼開発部長（現任）	(注)3	12
取締役	電力事業部副 事業部長兼電 力営業部長兼 東北支社長	西見 敏男	昭和27年6月27日生	昭和46年4月 当社入社 平成10年10月 営業本部第1営業部第1営業グル ープ長 11年7月 営業本部営業企画部営業開発グル ープ長 12年1月 環境プロカンパニープロジェクトマ ネージャー 14年7月 電力事業部電力営業グループ長 15年7月 理事電力事業部電力営業グループ長 19年6月 取締役電力事業部副事業部長兼電力 営業部長 21年2月 取締役電力事業部副事業部長兼電力 営業部長兼東北支社長（現任）	(注)3	10
取締役	機器事業部長	矢野 洋	昭和25年9月13日生	昭和48年4月 当社入社 48年7月 アイチーエマソン電機㈱（現アイチ エリック㈱） 出向 平成14年7月 同社技術本部技術部付部長 16年7月 当社理事 17年7月 理事機器事業部副事業部長 21年6月 取締役機器事業部副事業部長 23年5月 恵那愛知電機㈱取締役社長（現任） 23年6月 取締役機器事業部長（現任）	(注)3	11

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	電力事業部副 事業部長兼品 質管理部長	小野 輝男	昭和26年6月27日生	昭和49年4月 当社入社 平成14年7月 電力事業部品品質保証グループ長 17年7月 理事電力事業部品品質保証グループ長 18年7月 理事電力事業部副事業部長兼品質保 証グループ長 19年7月 理事電力事業部品品質保証グループ長 22年7月 理事電力事業部品品質管理部長兼品質 管理グループ長 23年6月 取締役電力事業部副事業部長兼品質 管理部長 (現任)	(注)3	9
取締役	電力事業部副 事業部長兼環 境エネルギー 技術部長	加藤 龍義	昭和27年6月21日生	昭和50年4月 中部電力㈱入社 平成10年7月 同社系統運用部保護制御グループ部 長 11年7月 同社岐阜支店岐阜電力センター所長 13年7月 同社系統運用部給電計画グループ部 長 15年7月 同社エネルギー応用研究所長 17年7月 同社電力技術研究所長 18年7月 当社理事電力事業部付変圧器・制御 担当 19年7月 理事電力事業部付変圧器・制御・プ ラントシステム担当 21年7月 理事電力事業部環境エネルギー技術 部長兼プラントシステムグループ長 23年6月 取締役電力事業部副事業部長兼環境 エネルギー技術部長 (現任)	(注)3	10
取締役	経営企画部長 兼業務部長	山田 誠	昭和26年12月7日生	昭和50年4月 当社入社 平成11年7月 管理本部管理部人事グループ長 19年7月 理事経営企画部人事グループ長 20年7月 理事経営企画部人事グループ長兼総 務グループ長 21年7月 理事経営企画部人事グループ長兼業 務部長 22年10月 理事経営企画部長兼業務部長 23年6月 取締役経営企画部長兼業務部長 (現 任)	(注)3	11
取締役		北野谷 惇	昭和20年10月8日生	昭和45年4月 古河電気工業㈱入社 平成13年6月 同社取締役エレクトロニクス・コン ポーネント事業部長 15年6月 同社常務取締役兼執行役員常務、エ レクトロニクス・コンポーネント事 業部長 16年4月 同社常務取締役兼執行役員常務、電 装・エレクトロニクスカンパニー長 17年6月 当社取締役 (現任) 18年6月 古河電気工業㈱専務取締役兼執行役 員専務、電装・エレクトロニクスカ ンパニー長 20年6月 同社取締役兼執行役員副社長 22年6月 同社特別顧問 (現任)	(注)3	—
取締役		宇佐美 和彦	昭和22年2月23日生	昭和44年4月 当社入社 44年7月 アイチエマソン電機㈱ (現アイチ エレック㈱) 出向 平成12年6月 同社取締役技術本部長 16年6月 同社常務取締役管理本部長 17年3月 蘇州愛知科技有限公司董事長 (現任) 17年6月 アイチエレック㈱取締役社長 (現任) 白鳥アイチエレック㈱取締役社長 (現任) 当社取締役 (現任) 23年7月 蘇州愛知高斯電機有限公司董事長 (現任)	(注)3	15

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常任監査役 (常勤)		古橋 宏造	昭和21年8月11日生	昭和45年4月 中部電力㈱入社 平成11年7月 同社支配人人材開発センター所長 15年6月 知多エル・エヌ・ジー㈱取締役 17年6月 同社常務取締役 21年6月 当社監査役 23年6月 常任監査役(現任)	(注)4	11
監査役 (常勤)		梶田 政昭	昭和23年6月26日生	昭和45年11月 当社入社 平成13年7月 営業部営業企画グループ長 14年7月 関西支社主幹 16年7月 機器事業部機器企画グループ長 17年7月 理事機器事業部機器企画グループ長 19年7月 理事機器事業部副事業部長兼機器営業部長 21年7月 理事機器事業部長付 22年7月 理事内部監理室長 23年6月 監査役(現任)	(注)4	15
監査役		富田 秀隆	昭和23年9月25日生	昭和48年4月 中部電力㈱入社 平成15年7月 同社支配人監査役室長 17年7月 同社執行役員長野支店長兼流通本部付 19年7月 同社常務執行役員人事部、経理部、人材開発センター統括 20年6月 同社監査役 23年6月 同社常任監査役(現任) 当社監査役(現任)	(注)4	—
監査役		竹尾 聡	昭和26年7月20日生	昭和51年4月 中部電力㈱入社 平成15年7月 同社支配人流通本部系統運用部長 17年7月 同社執行役員経営戦略本部部長 18年7月 同社執行役員静岡支店長兼流通本部付 19年7月 同社常務執行役員静岡支店長兼流通本部付 20年12月 同社常務執行役員静岡支店長兼流通本部付兼環境・立地本部付 22年6月 (株)トーエネック常務取締役兼執行役員安全環境部統括配電本部長 当社監査役(現任) 23年6月 (株)トーエネック取締役常務執行役員安全環境部統括配電本部長 24年6月 同社取締役常務執行役員営業本部長(現任)	(注)4	—
計						191

- (注) 1. 取締役北野谷惇は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役古橋宏造、富田秀隆及び竹尾聡は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会の終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
4. 監査役の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会の終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

①コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、環境の変化に素早く的確に対応することが株主の皆様をはじめとする社会全体からの信頼を獲得する鍵であると認識し、経営判断における意思決定の迅速化と透明性を確保すべく、コーポレート・ガバナンスの充実・強化に努めております。

②会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

イ. 会社の機関の基本説明

当社は、監査役制度を採用しており、取締役会、常務会、監査役会等を通じて取締役の業務執行に対する監視機能の充実をはかっております。

ロ. 会社の機関の内容

a. 取締役会

取締役会は、原則として毎月1回開催しております。平成24年3月31日現在、11名の取締役（うち社外取締役1名）で構成され、取締役の業務執行を監督するとともに法令・定款に定める事項及び経営上の重要事項を審議、決定しております。

b. 常務会（経営会議）

常務会は、原則として毎月2回開催しております。業務に精通した常勤取締役及び常勤監査役で構成され、業務執行に関する重要事項について多面的に審議し、速やかな対応をはかる体制をとっております。

c. 監査役会

監査役会は、原則として毎月1回開催しております。平成24年3月31日現在、4名の監査役（うち社外監査役3名）で構成され、各監査役は、本社及び各支社並びに子会社に対する監査を行っております。

ハ. 現状の体制を採用している理由

社外取締役1名及び社外監査役3名を含む取締役及び監査役で構成される取締役会並びに業務に精通した常勤取締役及び常勤監査役で構成される常務会を通じ、社外取締役及び社外監査役による経営の監視機能を整備する一方、重要な業務執行に速やかな対応をはかる体制を整備しており、現状において最適と考えているためであります。

ニ. 内部統制システムの整備の状況

当社における内部統制システムに関する基本的な考え方とその整備状況は、次のとおりであります。

<業務の適正を確保するための体制>

当社は、株主、顧客、取引先をはじめとする社会全体からの信頼を得るため、会社の業務の適正を確保すべく、次の体制の充実、強化に努める。

a. 経営管理に関する体制

- ・取締役会を原則として毎月1回開催し、法令・定款に定める事項及び経営上の重要事項を審議、決定するとともに取締役の業務執行を監督する。
- ・常務会を原則として毎月2回開催し、業務執行に関する重要事項について多面的に審議する。
- ・社内規定に各部門及び各部署の業務分掌、権限を定め、取締役及び使用人（以下「取締役等」という。）の職務執行の適正及び効率性を確保する。
- ・決裁にあたっては、審査部門等による審査を行う。
- ・取締役等の職務執行に係る文書等の保存・管理について、法令及び社内規定に基づき適切にこれを行う。
- ・各部門とは独立した社長直属の内部を監査する部門を設置し、各部門の業務執行状況等を監査する。

b. リスク管理に関する体制

- ・経営に重大な影響を与えるリスクについては、経営計画の策定及び重要な意思決定にあたり各部門が把握・評価し、常務会において審議または報告を行う。
- ・全社及び各部門のリスク管理に関して、組織、権限及び社内規定を整備する。

c. コンプライアンスに関する体制

- ・コンプライアンス全体を統括する組織として、社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置するとともに、中電グループ・コンプライアンス推進協議会に参加する。
- ・コンプライアンスの推進については、社員行動規範である「コンプライアンス10箇条」を定め、法令、社内規定及び企業倫理の遵守に対する取締役等の意識を高め、良識と責任のある行動をとるよう取組む。
- ・コンプライアンス違反事象の未然防止・早期改善をはかるため、内部通報窓口である「ヘルプライン」を設置する。

- d. グループ会社の業務の適正を確保するための体制
- ・グループ会社の業務内容の定期的な報告を受けるとともに重要案件についての協議を行うため、グループ会社の統括部門を当社経営企画部に置く。
 - ・グループ会社の業務運営が適正かつ効率的に実施されていることの内部監査を行う。
- e. 監査に関する体制
- ・監査役職務の補佐を目的に、各部門から独立した組織として監査役直属の監査役グループを設置し、監査役制度が十分機能する体制をとる。
 - ・監査役グループに所属する使用人は取締役の指揮・命令を受けず、その異動・評定にあたっては監査役の意向を尊重する。
 - ・取締役等は、各部門に係る事業の概況を監査役に報告するほか、主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書等について監査役の閲覧に供する。
 - ・社長は、監査役と代表取締役が経営全般に関して意見交換する機会を設ける。

ホ. 内部監査及び監査役監査の状況

内部監査については、社長直属の組織である内部監理室（4名）が担当しております。内部監理室では、当社及びグループ会社の業務執行状況、法令・規定の遵守状況等に関する監査並びに財務報告に係る内部統制の運用状況の検証を行い、必要に応じ関係部門に対する改善指示をしております。また、監査役とは定期的に連絡会を開催し、これらの活動等に関する意見・情報交換を行っております。

監査役による監査については、監査役が取締役会及び常務会に出席し、必要に応じて意見を述べるほか、重要書類の閲覧や業務執行状況のヒアリング等により、取締役の業務執行を監査しております。監査役には、経理業務を経験し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する者が含まれております。なお、監査役は、子会社の非常勤監査役を兼務しており、各社の業務執行状況を監視できる体制となっており、他社における取締役及び監査役経験者として豊富な経験、高い見識及び幅広い知識等を当社の監査に反映しております。

ヘ. 会計監査の状況

会計監査については、名古屋監査法人と監査契約を締結し、会社法及び金融商品取引法についての法定監査を受けております。監査業務を執行した公認会計士は、足立仁史氏と魚住康洋氏であり、監査業務に係る補助者は、公認会計士3名と公認会計士試験合格者2名であります。なお、当社と同監査法人または業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はありません。また、監査役は、会計監査人より定期的に監査結果の報告を受け、必要に応じ意見・情報交換を行うなど会計監査人と緊密な連携を保っております。

ト. 社外取締役及び社外監査役との関係

a. 社外取締役及び社外監査役の機能及び役割並びに選任状況についての考え方

当社は、他社における取締役及び監査役として豊富な経験、高い見識及び幅広い知識等を当社の経営または監査に反映させるため、社外取締役及び社外監査役を選任しております。

社外取締役である北野谷惇氏は、古河電気工業(株)の特別顧問を兼職しておりますが、当社と同社との取引関係は僅少であり、かつ同社の所有株式数割合は10%未満であることから、独立性は保たれていると判断しております。また、同氏は、上場会社の取締役経験者として豊富な経験と幅広い知識に基づき取締役会において発言を行っております。

社外監査役である古橋宏造氏は、当社の常勤監査役であり、当社のその他の関係会社で主要株主である中部電力(株)の連結子会社である知多エル・エヌ・ジー(株)の取締役出身であります。当社と同社との取引関係は僅少であり、かつ直接的な資本関係はないことから、独立性は保たれていると判断しております。また、同氏は、常勤監査役として豊富な経験と高い見識に基づき取締役会及び監査役会において発言を行っております。

社外監査役である富田秀隆氏は、中部電力(株)の常勤監査役を兼職しておりますが、同社の業務執行者ではないことから、独立性は保たれていると判断しております。また、同氏は、上場企業における常勤監査役として豊富な経験と高い見識に基づき発言を行っております。

社外監査役である竹尾聡氏は、中部電力(株)の連結子会社である(株)トーエネックの取締役常務執行役員を兼職しておりますが、当社と同社との取引関係は僅少であり、かつ直接的な資本関係はないことから、独立性は保たれていると判断しております。また、同氏は、上場企業における取締役として豊富な経験と幅広い知識に基づき発言を行っております。

なお、当社と社外取締役及び社外監査役との間に利害関係はありません。

b. 社外取締役及び社外監査役による監督及び監査と内部監査、監査役監査、会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外監査役を含む各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、監査計画等に従い、取締役及び内部監査部門その他の使用人等と意思疎通をはかり、情報の収集及び監査の環境の整備に努めております。

また、社外監査役を含めた各監査役と会計監査人は、定期的に意見・情報交換を行っております。

社外取締役は、原則として毎月1回開催される取締役会へ出席し、取締役の業務執行を監督するとともに、適宜発言を行っております。

③リスク管理体制の整備の状況

経営に重大な影響を与えるリスクについては、経営計画の策定及び重要な意思決定にあたり各部門が把握・評価し、常務会において審議または報告を行っております。

具体的には、リスク管理規程に従い各部門は、年2回定期的にリスクの把握・評価を実施し、リスク対策の状況を管理部門に報告するとともに、リスク対策を反映した業務計画を策定し、業務を遂行しております。

④取締役の定数

当社の取締役は19名以内とする旨を定款に定めております。

⑤取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

⑥取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役及び監査役が職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、取締役及び監査役（取締役及び監査役であった者を含む。）の会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって、法令の定める限度額の範囲内で、その責任を免除することができる旨を定款に定めております。

⑦社外取締役及び社外監査役との間で締結した責任限定契約の内容の概要

当社は、社外取締役及び社外監査役が職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第427条第1項及び定款の規定に基づき、社外取締役及び社外監査役との間において、任務を怠ったことによる損害賠償責任を会社法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度とする契約を締結しております。

⑧中間配当の決定機関

当社は、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。これは、株主への安定的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

⑨自己の株式の取得の決定機関

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、機動的に自己株式の取得を行うことを目的とするものであります。

⑩株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

⑪ 役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	123	100	—	23	—	12
監査役 (社外監査役を除く。)	15	15	—	—	—	2
社外役員	26	26	—	0	—	5

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なものはありません。

ニ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

当社は、役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針を定めておりませんが、役員報酬については、当社所定の基準に従い、株主総会決議に基づく報酬限度額の範囲内で支給いたしております。

⑫ 株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 55銘柄

貸借対照表計上額の合計額 1,592百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
 (前事業年度)
 特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
関西電力(株)	111,101	201	取引関係の維持、円滑化
TOTO(株)	273,250	182	取引関係の維持、円滑化
九州電力(株)	101,520	164	取引関係の維持、円滑化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	402,550	154	取引関係の維持、円滑化
日本碍子(株)	96,679	143	取引関係の維持、円滑化
東北電力(株)	46,431	65	取引関係の維持、円滑化
沖縄電力(株)	12,612	47	取引関係の維持、円滑化
ダイハツディーゼル(株)	110,000	46	取引関係の維持、円滑化
東洋シッター(株)	125,444	46	取引関係の維持、円滑化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	17,162	44	取引関係の維持、円滑化
北海道電力(株)	27,330	44	取引関係の維持、円滑化
(株)明電舎	100,000	37	取引関係の維持、円滑化
東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)	129,732	36	取引関係の維持、円滑化
古河電気工業(株)	100,000	33	取引関係の維持、円滑化
東海旅客鉄道(株)	50	32	取引関係の維持、円滑化
パラマウントベッド(株)	11,000	25	取引関係の維持、円滑化
中央三井トラスト・ホールディングス(株)	83,761	24	取引関係の維持、円滑化
(株)十六銀行	90,000	24	取引関係の維持、円滑化
東京電力(株)	50,941	23	取引関係の維持、円滑化
東日本旅客鉄道(株)	5,000	23	取引関係の維持、円滑化
(株)大垣共立銀行	83,490	22	取引関係の維持、円滑化
東洋電機(株)	50,000	14	取引関係の維持、円滑化
(株)愛知銀行	2,618	13	取引関係の維持、円滑化
北陸電力(株)	6,797	12	取引関係の維持、円滑化
イビデン(株)	4,693	12	取引関係の維持、円滑化
昭和電線ホールディングス(株)	110,250	11	取引関係の維持、円滑化
(株)野田スクリーン	300	9	取引関係の維持、円滑化
三菱重工業(株)	20,625	7	取引関係の維持、円滑化
リンナイ(株)	1,155	6	取引関係の維持、円滑化
神栄(株)	10,000	1	取引関係の維持、円滑化

(注) 中央三井トラスト・ホールディングス(株)は、平成23年4月1日付で住友信託銀行(株)と経営統合し、三井住友トラスト・ホールディングス(株)に商号変更しております。

(当事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
TOTO(株)	273,250	170	取引関係の維持、円滑化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	402,550	165	取引関係の維持、円滑化
関西電力(株)	111,101	142	取引関係の維持、円滑化
九州電力(株)	101,520	119	取引関係の維持、円滑化
日本碍子(株)	96,679	114	取引関係の維持、円滑化
東洋シヤッター(株)	125,444	55	取引関係の維持、円滑化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	17,162	46	取引関係の維持、円滑化
ダイハツディーゼル(株)	110,000	45	取引関係の維持、円滑化
東北電力(株)	46,431	43	取引関係の維持、円滑化
沖縄電力(株)	12,612	43	取引関係の維持、円滑化
東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)	129,732	40	取引関係の維持、円滑化
東海旅客鉄道(株)	50	34	取引関係の維持、円滑化
北海道電力(株)	27,330	33	取引関係の維持、円滑化
(株)明電舎	100,000	30	取引関係の維持、円滑化
パラマウントベッドホールディングス(株)	11,000	26	取引関係の維持、円滑化
東日本旅客鉄道(株)	5,000	26	取引関係の維持、円滑化
(株)十六銀行	90,000	25	取引関係の維持、円滑化
(株)大垣共立銀行	83,490	24	取引関係の維持、円滑化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	83,761	22	取引関係の維持、円滑化
古河電気工業(株)	100,000	22	取引関係の維持、円滑化
東洋電機(株)	50,000	14	取引関係の維持、円滑化
(株)愛知銀行	2,618	13	取引関係の維持、円滑化
イビデン(株)	5,987	12	取引関係の維持、円滑化
東京電力(株)	50,941	10	取引関係の維持、円滑化
北陸電力(株)	6,797	10	取引関係の維持、円滑化
(株)野田スクリーン	300	9	取引関係の維持、円滑化
昭和電線ホールディングス(株)	110,250	8	取引関係の維持、円滑化
三菱重工業(株)	20,625	8	取引関係の維持、円滑化
リンナイ(株)	1,155	6	取引関係の維持、円滑化
神栄(株)	10,000	1	取引関係の維持、円滑化

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	28	—	28	—
連結子会社	—	—	—	—
計	28	—	28	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度及び当連結会計年度
該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度及び当連結会計年度
該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

前連結会計年度及び当連結会計年度
該当事項はありませんが、監査日数等を勘案して決定しております。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の財務諸表について、名古屋監査法人により監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。また、公益財団法人財務会計基準機構の行う研修に参加しております。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,181	12,005
受取手形及び売掛金	※1 18,626	※1, ※3 22,608
有価証券	2,400	4,410
商品及び製品	※1 3,366	3,374
仕掛品	※1 3,304	3,206
原材料及び貯蔵品	※1 3,421	4,605
繰延税金資産	258	238
その他	261	786
貸倒引当金	△10	△9
流動資産合計	43,810	51,226
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※1 22,868	※1 22,888
減価償却累計額	△15,603	△15,970
減損損失累計額	△98	△98
建物及び構築物（純額）	7,166	6,820
機械装置及び運搬具	※1 23,534	※1 23,426
減価償却累計額	△21,096	△21,084
減損損失累計額	△16	△16
機械装置及び運搬具（純額）	2,421	2,325
工具、器具及び備品	8,740	8,576
減価償却累計額	△8,096	△8,006
減損損失累計額	△2	△2
工具、器具及び備品（純額）	641	567
土地	※1 4,240	※1 4,240
リース資産	887	954
減価償却累計額	△175	△315
リース資産（純額）	711	638
建設仮勘定	178	592
有形固定資産合計	15,359	15,184
無形固定資産	163	147
投資その他の資産		
投資有価証券	※1, ※4 4,362	※1, ※4 4,143
繰延税金資産	2,659	2,458
その他	600	631
貸倒引当金	△156	△161
投資その他の資産合計	7,466	7,071
固定資産合計	22,988	22,403
資産合計	66,799	73,629

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,261	※3 16,670
短期借入金	※1 4,710	※1 5,618
1年内返済予定の長期借入金	※1 2,560	※1 1,784
リース債務	167	183
未払費用	1,989	2,180
未払法人税等	1,275	896
未払消費税等	235	189
その他	1,242	1,053
流動負債合計	25,440	28,578
固定負債		
長期借入金	※1 3,852	※1 3,763
リース債務	546	431
繰延税金負債	92	84
退職給付引当金	6,877	6,800
役員退職慰労引当金	2	—
負ののれん	109	69
その他	516	457
固定負債合計	11,997	11,607
負債合計	37,438	40,185
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,053	4,053
資本剰余金	2,199	2,199
利益剰余金	22,816	26,954
自己株式	△26	△27
株主資本合計	29,041	33,179
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	423	297
為替換算調整勘定	△371	△366
その他の包括利益累計額合計	52	△69
少数株主持分	267	335
純資産合計	29,361	33,444
負債純資産合計	66,799	73,629

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
売上高	62,185	71,932
売上原価	※2, ※6 52,600	※2, ※6 59,525
売上総利益	9,585	12,406
販売費及び一般管理費	※1, ※2 5,411	※1, ※2 6,197
営業利益	4,174	6,209
営業外収益		
受取利息	14	20
受取配当金	71	68
固定資産賃貸料	58	59
持分法による投資利益	—	62
負ののれん償却額	40	40
為替差益	—	19
屑消耗品売却額	208	297
助成金収入	13	12
その他	119	86
営業外収益合計	526	667
営業外費用		
支払利息	217	201
持分法による投資損失	18	—
為替差損	108	—
その他	47	45
営業外費用合計	392	246
経常利益	4,308	6,629
特別利益		
固定資産売却益	※3 1	※3 10
投資有価証券売却益	1	7
負ののれん発生益	—	122
特別利益合計	2	140
特別損失		
固定資産売却損	※4 4	※4 3
固定資産除却損	※5 52	※5 36
投資有価証券評価損	51	41
ゴルフ会員権評価損	0	0
災害による損失	—	18
その他	0	2
特別損失合計	108	103
税金等調整前当期純利益	4,201	6,666
法人税、住民税及び事業税	1,740	1,817
法人税等調整額	△237	325
法人税等合計	1,503	2,143
少数株主損益調整前当期純利益	2,698	4,523
少数株主利益	31	0
当期純利益	2,667	4,523

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	2,698	4,523
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△294	△126
為替換算調整勘定	△189	9
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	△0
その他の包括利益合計	△486	* △117
包括利益	2,212	4,405
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,182	4,401
少数株主に係る包括利益	29	3

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	4,053	4,053
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	4,053	4,053
資本剰余金		
当期首残高	2,199	2,199
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	2,199	2,199
利益剰余金		
当期首残高	20,486	22,816
当期変動額		
剰余金の配当	△337	△385
当期純利益	2,667	4,523
当期変動額合計	2,330	4,138
当期末残高	22,816	26,954
自己株式		
当期首残高	△25	△26
当期変動額		
自己株式の取得	△0	△0
当期変動額合計	△0	△0
当期末残高	△26	△27
株主資本合計		
当期首残高	26,712	29,041
当期変動額		
剰余金の配当	△337	△385
当期純利益	2,667	4,523
自己株式の取得	△0	△0
当期変動額合計	2,329	4,137
当期末残高	29,041	33,179

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	719	423
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△295	△126
当期変動額合計	△295	△126
当期末残高	423	297
為替換算調整勘定		
当期首残高	△182	△371
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△189	4
当期変動額合計	△189	4
当期末残高	△371	△366
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	537	52
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△484	△121
当期変動額合計	△484	△121
当期末残高	52	△69
少数株主持分		
当期首残高	238	267
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	28	67
当期変動額合計	28	67
当期末残高	267	335
純資産合計		
当期首残高	27,488	29,361
当期変動額		
剰余金の配当	△337	△385
当期純利益	2,667	4,523
自己株式の取得	△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△456	△53
当期変動額合計	1,872	4,083
当期末残高	29,361	33,444

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	4,201	6,666
減価償却費	2,231	2,105
負ののれん償却額	△40	△40
負ののれん発生益	—	△122
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3	4
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	195	△76
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△20	△2
投資有価証券評価損益 (△は益)	51	41
ゴルフ会員権評価損	0	0
受取利息及び受取配当金	△86	△89
支払利息	217	201
持分法による投資損益 (△は益)	18	△62
固定資産売却損益 (△は益)	3	△6
固定資産除却損	52	36
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0	△7
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,143	△4,568
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△881	△919
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,529	3,317
未払消費税等の増減額 (△は減少)	34	△39
その他	304	185
小計	4,671	6,625
利息及び配当金の受取額	86	88
持分法適用会社からの配当金の受取額	8	6
利息の支払額	△221	△201
法人税等の支払額	△1,228	△2,194
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,316	4,324
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	△419	52
有価証券の増減額 (△は増加)	△1,500	△2,009
有形固定資産の取得による支出	△1,260	△1,566
有形固定資産の売却による収入	156	15
無形固定資産の取得による支出	△6	△13
無形固定資産の売却による収入	—	0
投資有価証券の取得による支出	△74	△15
投資有価証券の売却による収入	4	12
子会社株式の取得による支出	—	△20
短期貸付けによる支出	—	△500
その他	8	△103
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,090	△4,148

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△380	908
長期借入れによる収入	1,936	2,500
長期借入金の返済による支出	△1,652	△3,363
配当金の支払額	△337	△385
少数株主への配当金の支払額	△1	△1
連結子会社設立に伴う少数株主からの払込による収入	—	207
その他	△119	△176
財務活動によるキャッシュ・フロー	△554	△309
現金及び現金同等物に係る換算差額	△88	9
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△416	△123
現金及び現金同等物の期首残高	12,054	11,637
現金及び現金同等物の期末残高	* 11,637	* 11,513

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 10社

連結子会社の名称

(株)愛工機器製作所、アイチエレクトク(株)、愛電商事(株)、恵那愛知電機(株)、
岐阜愛知電機(株)、寿工業(株)、白鳥アイチエレクトク(株)、長野愛知電機(株)、
蘇州愛知科技有限公司、蘇州愛知高斯電機有限公司

蘇州愛知高斯電機有限公司（平成23年7月設立）は、当連結会計年度より連結の範囲に含めておりま
す。

(2) 非連結子会社の名称

電子ブロック機器製造(株)

(3) 非連結子会社について連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金
（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から
除いております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社又は関連会社の数及びこれらのうち主要な会社等の名称

関連会社：2社

愛知金属工業(株) 他

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称

非連結子会社：電子ブロック機器製造(株)

関連会社：愛知亜鉛鍍金(株)

(3) 持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は、それぞれ当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体と
しても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(4) 持分法の適用手続について特に記載する必要があると認められる事項

持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、当該会社の事業年度に係る財
務諸表を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち蘇州愛知科技有限公司及び蘇州愛知高斯電機有限公司の決算日は、12月31日でありま
す。連結財務諸表の作成に当たっては、決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日
までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移
動平均法により算定しております。）

時価のないもの

移動平均法による原価法

②棚卸資産

製品・仕掛品

主として個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定しております。)

商品・原材料・貯蔵品

主として移動平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定しております。)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産(リース資産を除く)

建物(建物附属設備を除く)は定額法、建物以外については定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～60年

機械装置及び運搬具 4～8年

②無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

④少額減価償却資産

取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、連結会計年度毎に一括して3年間で均等償却しております。

⑤長期前払費用

均等償却

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務に基づき計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(3年)による按分額を費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(15年)による按分額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

請負工事のうち、進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債、収益及び費用は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

①ヘッジ会計の方法

金利スワップ取引については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

②ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 金利スワップ取引

ヘッジ対象 変動金利の長期借入金等の金利変動リスク

③ヘッジ方針

金利変動リスクの回避並びに金融収支の安定化のため行っております。

④ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の判定を省略しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する定期預金からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理の方法

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

【表示方法の変更】

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 前連結会計年度において、独立掲記しておりました営業活動によるキャッシュ・フローの「その他の流動資産の増減額（△は増加）」、「その他の流動負債の増減額（△は減少）」、「その他の固定負債の増減額（△は減少）」は、それぞれ金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度から「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他の流動資産の増減額（△は増加）」に表示していた77百万円、「その他の流動負債の増減額（△は減少）」に表示していた185百万円、「その他の固定負債の増減額（△は減少）」に表示していた13百万円は、それぞれ「その他」の項目に組み替えております。

2. 前連結会計年度において、投資活動によるキャッシュ・フローの「有価証券の取得による支出」として表示しておりましたものは、当連結会計年度から「有価証券の増減額（△は増加）」に名称を変更しております。

3. 前連結会計年度において、独立掲記しておりました投資活動によるキャッシュ・フローの「投資その他の資産の増減額（△は増加）」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度から「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、投資活動によるキャッシュ・フローの「投資その他の資産の増減額（△は増加）」に表示していた5百万円は、「その他」の項目に組み替えております。

【追加情報】

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当連結会計年度 (平成24年3月31日)	
受取手形	158百万円	(一百万円)	137百万円	(一百万円)
たな卸資産	547	(—)	—	(—)
建物	3,847	(3,485)	3,646	(3,300)
機械装置	482	(482)	383	(383)
土地	1,133	(936)	1,133	(936)
投資有価証券	15	(—)	13	(—)
計	6,185	(4,904)	5,314	(4,620)

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当連結会計年度 (平成24年3月31日)	
短期借入金	1,471百万円	(1,001百万円)	1,441百万円	(1,001百万円)
1年内返済予定の長期借入金	1,713	(1,558)	1,114	(725)
長期借入金	2,610	(2,057)	2,672	(2,202)
計	5,794	(4,617)	5,228	(3,930)

上記のうち () 内書は工場財団抵当並びに当該債務を示しております。

2 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形裏書譲渡高	208百万円	266百万円

※3 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当連結会計年度末日は金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形	—	204百万円
支払手形	—	1,227

※4 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券	1,431百万円	1,484百万円

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
発送費	882百万円	1,041百万円
給料手当	1,965	2,020
退職給付引当金繰入額	120	117
役員退職慰労引当金繰入額	0	0
貸倒引当金繰入額	4	4

※2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	417百万円	726百万円

※3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
機械装置及び運搬具	0百万円	10百万円
工具、器具及び備品	0	0
計	1	10

※4 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
機械装置及び運搬具	3百万円	3百万円
工具、器具及び備品	0	0
計	4	3

※5 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物及び構築物	24百万円	25百万円
機械装置及び運搬具	19	8
工具、器具及び備品	9	1
その他	—	0
計	52	36

※6 期末たな卸高は収益性低下による簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	152百万円	145百万円

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額	△273百万円
組替調整額	34
税効果調整前	△239
税効果額	112
その他有価証券評価差額金	△126

為替換算調整勘定

当期発生額	9
為替換算調整勘定	9

持分法適用会社に対する持分相当額

当期発生額	△0
その他の包括利益合計	△117

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(千株)	増加株式数(千株)	減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式 普通株式	48,252	—	—	48,252
自己株式 普通株式	125	3	—	128

(注) 自己株式の増加3千株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	168	3.50	平成22年3月31日	平成22年6月30日
平成22年10月29日 取締役会	普通株式	168	3.50	平成22年9月30日	平成22年12月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	192	4.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(千株)	増加株式数(千株)	減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式 普通株式	48,252	—	—	48,252
自己株式 普通株式	128	2	—	131

(注) 自己株式の増加2千株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 新株予約権等に関する事項
該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	192	4.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日
平成23年10月31日 取締役会	普通株式	192	4.00	平成23年9月30日	平成23年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	361	7.50	平成24年3月31日	平成24年6月29日

(注) 1株当たり配当額には、創立70周年記念配当3円を含んでおります。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
現金及び預金勘定	12,181百万円	12,005百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△544	△492
現金及び現金同等物	11,637	11,513

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

①リース資産の内容

有形固定資産

主として、回転機事業における生産設備（機械装置）であります。

②リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	1,404	961	443
工具、器具及び備品	422	327	95
合計	1,827	1,288	538

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高の有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	1,141	914	226
工具、器具及び備品	305	277	28
合計	1,447	1,192	255

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高の有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	282	194
1年超	255	61
合計	538	255

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高の有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	354	282
減価償却費相当額	354	282

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針であります。デリバティブ取引については、金利変動リスクの回避並びに金融収支の安定化のため金利スワップ取引を利用し、また、外貨建金銭債権債務の為替変動リスクを回避する目的で為替予約を利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先ごとの期日管理及び残高照合を行うとともに、年度末に残高確認を行っております。

投資有価証券は主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。当該リスクに関しては、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は、主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、長期借入金の一部については、金利変動リスクの回避並びに金融収支の安定化のため、金利スワップ取引をヘッジ手段として利用しております。ヘッジの有効性の評価方法については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定を省略しております。

金利スワップ取引については、市場金利の価格変動リスクを有し、為替予約取引は、為替相場の変動リスクを有しております。なお、取引の契約先は、信用度の高い金融機関であり、信用リスクはほとんどないと判断しております。また、金利スワップ取引については、社内規定に従い、決裁権限者の承認を受け管理部門にて行っております。為替予約取引については、社内規定に従い、決裁権限者の承認を受け営業部門又は購買部門にて行われ、その都度、管理部門に報告されております。

営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、適時に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注）2を参照ください。）。

前連結会計年度（平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	12,181	12,181	—
(2) 受取手形及び売掛金	18,626	18,626	—
(3) 有価証券	2,400	2,400	—
(4) 投資有価証券	2,793	2,794	0
満期保有目的の債券	200	201	0
その他有価証券	2,593	2,593	—
資産計	36,002	36,003	0
(1) 支払手形及び買掛金	13,261	13,261	—
(2) 短期借入金	4,710	4,710	—
(3) 長期借入金	6,412	6,491	78
(4) リース債務	714	715	0
負債計	25,097	25,177	79
デリバティブ取引（※）	1	1	—

（※） デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で表示しております。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	12,005	12,005	—
(2) 受取手形及び売掛金	22,608	22,608	—
(3) 有価証券	4,410	4,410	—
(4) 投資有価証券	2,522	2,523	0
満期保有目的の債券	200	201	0
その他有価証券	2,322	2,322	—
資産計	41,547	41,547	0
(1) 支払手形及び買掛金	16,670	16,670	—
(2) 短期借入金	5,618	5,618	—
(3) 長期借入金	5,548	5,576	27
(4) リース債務	615	614	△0
負債計	28,452	28,480	27
デリバティブ取引（※）	(0)	(0)	—

（※） デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で表示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに (2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券

短期間で運用成果が分配等されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。債券は、市場価格がある場合は、取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっており、市場価格がない場合は、合理的に算定された価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに (2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金、並びに (4) リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入又は、リース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

なお、長期借入金及びリース債務には、1年以内に返済予定のものを含めて記載しております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
非上場株式	1,568	1,621

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「資産(4)投資有価証券」に含めておりません。

(注) 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度 (平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	12,181	—	—	—
受取手形及び売掛金	18,626	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券(社債)	—	200	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの				
債券(社債)	—	100	—	—
その他	1,800	—	—	—
合計	32,608	300	—	—

当連結会計年度（平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	12,005	—	—	—
受取手形及び売掛金	22,608	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券（社債）	—	200	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの				
債券（国債）	10	—	—	—
債券（社債）	—	100	—	—
その他	3,800	—	—	—
合計	38,423	300	—	—

(注) 4. 長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度（平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	2,560	1,820	1,202	327	180	320
リース債務	167	168	138	97	83	59
合計	2,727	1,989	1,340	425	263	379

当連結会計年度（平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	1,784	1,143	1,593	434	309	282
リース債務	183	153	112	98	47	18
合計	1,968	1,296	1,706	533	357	300

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度 (平成23年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの			
国債・地方債等	—	—	—
社債	200	201	0
その他	—	—	—
合計	200	201	0

当連結会計年度 (平成24年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの			
国債・地方債等	—	—	—
社債	200	201	0
その他	—	—	—
合計	200	201	0

2. その他有価証券

前連結会計年度 (平成23年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
①株式	2,113	1,253	859
②債券			
国債・地方債等	—	—	—
社債	100	100	0
その他	—	—	—
③その他	17	15	2
小計	2,231	1,369	861
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
①株式	362	509	△146
②債券			
国債・地方債等	—	—	—
社債	—	—	—
その他	—	—	—
③その他	2,400	2,400	—
小計	2,762	2,909	△146
合計	4,993	4,278	715

当連結会計年度（平成24年3月31日）

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
①株式	1,630	999	630
②債券			
国債・地方債等	—	—	—
社債	100	100	0
その他	—	—	—
③その他	18	15	2
小計	1,748	1,115	633
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
①株式	573	731	△158
②債券			
国債・地方債等	9	9	—
社債	—	—	—
その他	—	—	—
③その他	4,400	4,400	—
小計	4,983	5,141	△158
合計	6,732	6,257	475

3. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
①株式	4	1	—
②債券	—	—	—
③その他	—	—	—
合計	4	1	—

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
①株式	12	7	—
②債券	—	—	—
③その他	—	—	—
合計	12	7	—

4. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式41百万円の減損処理を行っております。

なお、減損処理に当たっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度 (平成23年 3月31日)

(単位: 百万円)

	種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引以外 の取引	為替予約取引 買建 米ドル	100	—	1	1
	合計	100	—	1	1

(注) 時価の算定方法

取引金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度 (平成24年 3月31日)

(単位: 百万円)

	種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引以外 の取引	為替予約取引 買建 米ドル	33	—	△0	△0
	合計	33	—	△0	△0

(注) 時価の算定方法

取引金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度 (平成23年 3月31日)

(単位: 百万円)

ヘッジ会計の 方法	デリバティブ 取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち 1年超	時価
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	3,102	1,431	(※)

(※) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度 (平成24年 3月31日)

(単位: 百万円)

ヘッジ会計の 方法	デリバティブ 取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち 1年超	時価
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	2,431	1,728	(※)

(※) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として退職一時金制度（9社）、確定給付型企业年金制度（連結子会社2社）及び確定拠出年金制度（連結子会社1社）を設けており、連結子会社1社において総合型の厚生年金基金制度に加入しております。また、従業員の退職等に際して、割増退職金を支払う場合があります。

なお、当連結会計年度において、連結子会社1社が適格退職年金制度から確定給付型企业年金制度に移行しております。

要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

(1) 制度全体の積立状況に関する事項（平成22年3月31日現在）

年金資産の額	49,352百万円
年金財政計算上の給付債務の額	44,429
差引額	4,923

(2) 制度全体に占める連結子会社の掛金拠出割合（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）
1.9%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、剰余金12,422百万円、未償却過去勤務債務残高△2,214百万円、繰越不足金△5,284百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間13年の元利均等償却であります。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

(1) 制度全体の積立状況に関する事項（平成23年3月31日現在）

年金資産の額	47,907百万円
年金財政計算上の給付債務の額	49,265
差引額	△1,357

(2) 制度全体に占める連結子会社の掛金拠出割合（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）
2.1%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、剰余金585百万円、未償却過去勤務債務残高△1,942百万円であり、本制度における過去勤務債務の償却方法は期間6年4ヶ月の元利均等償却であります。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成24年3月31日現在)
①退職給付債務	△7,358百万円	△7,560百万円
②年金資産	283	282
③未積立退職給付債務(①+②)	△7,074	△7,278
④未認識数理計算上の差異	197	478
⑤退職給付引当金(③+④)	△6,877	△6,800

(注) 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
①勤務費用	439百万円	406百万円
②利息費用	135	137
③数理計算上の差異の費用処理額	44	38
④その他	51	73
⑤退職給付費用(①+②+③+④)	670	657

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「①勤務費用」に計上しております。ただし、確定拠出年金への拠出額及び総合型厚生年金基金への拠出額は「④その他」に計上しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
2.5%	2.0%

(3) 過去勤務債務の額の処理年数

3年(3年による按分額を費用処理することとしております。)

(4) 数理計算上の差異の処理年数

15年(各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。)

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	302百万円	295百万円
役員退職慰労引当金	142	105
退職給付引当金限度超過額	2,761	2,445
資産に係る未実現利益調整額	388	392
繰越欠損金	1,416	836
その他	492	421
繰延税金資産小計	5,503	4,497
評価性引当額(△)	△2,138	△1,499
繰延税金資産合計	3,365	2,998
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	△200	△173
その他有価証券評価差額金	△284	△170
その他	△54	△40
繰延税金負債合計	△539	△385
繰延税金資産の純額	2,826	2,613

(注) 繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
流動資産－繰延税金資産	258百万円	238百万円
固定資産－繰延税金資産	2,659	2,458
固定負債－繰延税金負債	△92	△84

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率 (調整)	40.4%	40.4%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.8	0.6
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.3	△0.2
住民税均等割	0.6	0.4
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	—	4.2
スケジューリング不能差異	△1.4	△5.3
持分法による投資損益等	△4.1	△7.6
その他	△0.2	△0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	35.8	32.2

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の40.4%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは37.8%、平成27年4月1日以降のものについては35.4%にそれぞれ変更しております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が257百万円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が281百万円、その他有価証券評価差額金が23百万円、それぞれ増加しております。

（賃貸等不動産関係）

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

賃貸等不動産の総額に重要性がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

賃貸等不動産の総額に重要性がないため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、事業部制を採用しており、国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。従って、当社は、事業部を基礎とした製品別のセグメントから構成されており、「電力機器」及び「回転機」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「電力機器」は、各種変圧器、制御機器等の製造販売及び電力設備工事等を行っております。

「回転機」は、小形モータ、シャッター開閉機、アクチュエータ、プリント配線板等の製造販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	電力機器	回転機	計
売上高			
外部顧客への売上高	28,570	33,615	62,185
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	28,570	33,615	62,185
セグメント利益	4,898	702	5,600
セグメント資産	20,521	31,842	52,363
その他の項目			
減価償却費	716	1,424	2,141
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	533	1,036	1,569

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	電力機器	回転機	計
売上高			
外部顧客への売上高	31,809	40,122	71,932
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	31,809	40,122	71,932
セグメント利益	5,023	2,612	7,635
セグメント資産	21,957	36,830	58,788
その他の項目			
減価償却費	688	1,287	1,976
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	639	1,188	1,828

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	5,600	7,635
全社費用(注)	△1,426	△1,426
連結財務諸表の営業利益	4,174	6,209

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(単位：百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	52,363	58,788
全社資産(注)	14,436	14,841
連結財務諸表の資産合計	66,799	73,629

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社での管理部門に係る資産等であります。

(単位：百万円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額(注)		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	2,141	1,976	51	59	2,193	2,036
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,569	1,828	45	55	1,615	1,883

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、親会社本社での管理部門に係る設備投資額であります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	その他	合計
54,469	7,662	54	62,185

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
中部電力㈱	19,030	電力機器

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	その他	合計
58,321	13,545	64	71,932

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
中部電力㈱	18,832	電力機器

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

なお、平成22年4月1日前行われた子会社株式の取得により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

当期償却額	40百万円
当期末残高	109

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

なお、平成22年4月1日前行われた子会社株式の取得により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

当期償却額	40百万円
当期末残高	69

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

「電力機器」セグメントにおいて、当社が岐阜愛知電機(株)の株式を追加取得したことにより114百万円の負ののれん発生益を計上しております。

「回転機」セグメントにおいて、当社が(株)愛工機器製作所の株式を追加取得したことにより7百万円の負ののれん発生益を計上しております。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

① 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る。)等

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

会社の名称 (種類)	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の 被所有割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
中部電力㈱ (その他の 関係会社)	名古屋市 東区	430,777	電気事業	直接 24.28	当社製品の 販売先 役員の兼任	変圧器等 の販売	18,074	売掛金	2,587
								未収入金	50

- (注) 1. 取引金額には消費税等を含まず、期末残高には消費税等を含んでおります。
2. 取引条件ないし取引条件の決定方針等
変圧器等の販売についての価格その他の取引条件は、当社と関連を有しない他の当事者と同様の条件によっております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

会社の名称 (種類)	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の 被所有割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
中部電力㈱ (その他の 関係会社)	名古屋市 東区	430,777	電気事業	直接 24.28	当社製品の 販売先 役員の兼任	変圧器等 の販売	17,614	売掛金	2,810
								未収入金	54

- (注) 1. 取引金額には消費税等を含まず、期末残高には消費税等を含んでおります。
2. 取引条件ないし取引条件の決定方針等
変圧器等の販売についての価格その他の取引条件は、当社と関連を有しない他の当事者と同様の条件によっております。

② 連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

会社の名称 (種類)	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の 所有(被所 有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
中電ビジネス サポート㈱ (その他の 関係会社 の子会社)	名古屋市 東区	490	サービス業	なし	資金の借入	資金の借入	—	1年内返済 予定の長期 借入金	276
								長期借入金	568

- (注) 1. 取引金額、期末残高ともに消費税等を含んでおりません。
2. 取引条件ないし取引条件の決定方針等
資金の借入利率については、市場金利を勘案した利率により決定されております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	604円57銭	688円05銭
1株当たり当期純利益	55円42銭	94円00銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
当期純利益(百万円)	2,667	4,523
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	2,667	4,523
普通株式の期中平均株式数(千株)	48,125	48,121

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	29,361	33,444
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	267	335
(うち少数株主持分)	(267)	(335)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	29,093	33,109
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数(千株)	48,123	48,120

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	4,710	5,618	1.41	—
1年内返済予定の長期借入金	2,560	1,784	2.03	—
1年以内に返済予定のリース債務	167	183	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く）	3,852	3,763	1.62	平成25年7月～ 平成32年9月
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く）	546	431	—	平成25年4月～ 平成29年9月
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	11,836	11,782	—	—

(注) 1 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務の平均利率については、一部の所有権移転外ファイナンス・リース取引においてリース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載しておりません。

3 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く）の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	1,143	1,593	434	309
リース債務	153	112	98	47

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	17,764	34,647	51,681	71,932
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,723	3,139	4,662	6,666
四半期(当期)純利益 (百万円)	1,115	2,185	2,956	4,523
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	23.19	45.42	61.44	94.00

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	23.19	22.23	16.02	32.56

2 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,554	5,619
受取手形	※2 1,566	※2, ※4 1,562
売掛金	※2 7,624	※2 9,772
有価証券	2,300	4,300
商品及び製品	1,595	1,056
仕掛品	2,283	2,203
原材料及び貯蔵品	1,485	1,373
前払費用	20	19
未収入金	85	90
繰延税金資産	256	229
短期貸付金	—	500
その他	12	17
貸倒引当金	△0	△1
流動資産合計	23,782	26,744
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 9,907	※1 10,000
減価償却累計額	△7,185	△7,355
建物（純額）	2,722	2,644
構築物	1,275	1,410
減価償却累計額	△1,138	△1,147
構築物（純額）	136	263
機械及び装置	9,810	9,770
減価償却累計額	△8,925	△9,041
機械及び装置（純額）	884	728
車両運搬具	209	199
減価償却累計額	△186	△183
車両運搬具（純額）	23	16
工具、器具及び備品	5,052	4,941
減価償却累計額	△4,741	△4,661
工具、器具及び備品（純額）	311	279
土地	※1 2,688	※1 2,688
リース資産	65	80
減価償却累計額	△14	△28
リース資産（純額）	51	51
建設仮勘定	1	66
有形固定資産合計	6,819	6,739

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
無形固定資産		
ソフトウェア	50	35
電話加入権	5	5
リース資産	26	26
無形固定資産合計	82	67
投資その他の資産		
投資有価証券	2,002	1,810
関係会社株式	6,403	6,348
関係会社社債	100	100
関係会社出資金	1,040	1,132
従業員に対する長期貸付金	0	0
関係会社長期貸付金	1,705	1,557
破産更生債権等	0	0
長期前払費用	61	43
繰延税金資産	1,317	1,260
その他	200	200
貸倒引当金	△80	△80
投資その他の資産合計	12,752	12,375
固定資産合計	19,654	19,182
資産合計	43,436	45,926
負債の部		
流動負債		
支払手形	※2 3,243	※2, ※4 4,330
買掛金	※2 4,110	※2 5,238
短期借入金	※1 2,270	※1 2,320
1年内返済予定の長期借入金	※1 1,276	—
未払金	118	418
未払費用	1,131	1,134
未払法人税等	1,031	656
未払消費税等	102	92
前受金	328	143
預り金	45	50
設備関係支払手形	121	※4 144
その他	21	26
流動負債合計	13,801	14,555

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
固定負債		
長期借入金	568	※1 1,000
退職給付引当金	3,996	4,006
その他	241	219
固定負債合計	4,805	5,226
負債合計	18,606	19,781
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,053	4,053
資本剰余金		
資本準備金	2,199	2,199
資本剰余金合計	2,199	2,199
利益剰余金		
利益準備金	812	812
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	164	173
別途積立金	11,500	15,000
繰越利益剰余金	5,737	3,674
利益剰余金合計	18,214	19,660
自己株式	△22	△23
株主資本合計	24,443	25,889
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	386	255
評価・換算差額等合計	386	255
純資産合計	24,830	26,144
負債純資産合計	43,436	45,926

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上高		
製品売上高	29,087	32,411
商品売上高	3,022	3,785
売上高合計	※1 32,110	※1 36,197
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	1,465	1,595
当期製品製造原価	23,510	25,948
当期商品仕入高	2,776	3,565
合計	27,751	31,109
他勘定振替高	※3 1	※3 7
商品及び製品期末たな卸高	1,595	1,056
売上原価合計	※1, ※7, ※8 26,154	※1, ※7, ※8 30,046
売上総利益	5,956	6,151
販売費及び一般管理費	※2, ※7 2,984	※2, ※7 3,051
営業利益	2,971	3,099
営業外収益		
受取利息	※1 16	※1 24
受取配当金	※1 90	※1 101
固定資産賃貸料	※1 152	※1 155
業務受託料	※1 47	※1 47
その他	113	106
営業外収益合計	420	434
営業外費用		
支払利息	67	56
固定資産賃貸費用	42	39
その他	10	13
営業外費用合計	120	109
経常利益	3,271	3,424
特別利益		
固定資産売却益	※4 0	※4 4
特別利益合計	0	4
特別損失		
固定資産売却損	—	※5 0
固定資産除却損	※6 29	※6 5
投資有価証券評価損	50	28
その他	0	—
特別損失合計	81	33
税引前当期純利益	3,190	3,395
法人税、住民税及び事業税	1,456	1,369
法人税等調整額	△126	194
法人税等合計	1,330	1,564
当期純利益	1,860	1,831

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
I 材料費	※1	15,897	66.3	18,030	69.1
II 労務費		4,694	19.6	5,163	19.8
III 経費		3,394	14.1	2,902	11.1
当期総製造費用		23,986	100.0	26,096	100.0
期首仕掛品たな卸高		2,027		2,283	
合計		26,013		28,380	
期末仕掛品たな卸高		2,283		2,203	
他勘定振替高	※2	220		228	
当期製品製造原価		23,510		25,948	

(注) ※1 経費のうち主な内訳

項目	前事業年度	当事業年度
減価償却費	782百万円	736百万円
電力費	206	222
運賃	189	192
据付運搬費	310	242
研究費	133	129
外注加工費	655	272
消耗品費	205	212
その他	912	894
計	3,394	2,902

※2 他勘定振替高の内訳

項目	前事業年度	当事業年度
有形固定資産	4百万円	103百万円
販売費及び一般管理費	215	124
計	220	228

(原価計算の方法)

見越品(小形変圧器、回転機関係製品)については標準総合原価計算、受注品(その他製品)については個別原価計算によっております。ただし、実際原価との差額は仕掛品、製品及び売上原価にそれぞれ配分しております。

③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	4,053	4,053
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	4,053	4,053
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	2,199	2,199
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	2,199	2,199
資本剰余金合計		
当期首残高	2,199	2,199
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	2,199	2,199
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	812	812
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	812	812
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金		
当期首残高	168	164
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	△4	△4
実効税率変更に伴う積立金の増加	—	13
当期変動額合計	△4	9
当期末残高	164	173
別途積立金		
当期首残高	11,500	11,500
当期変動額		
別途積立金の積立	—	3,500
当期変動額合計	—	3,500
当期末残高	11,500	15,000

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)
繰越利益剰余金		
当期首残高	4,209	5,737
当期変動額		
剰余金の配当	△337	△385
別途積立金の積立	—	△3,500
固定資産圧縮積立金の取崩	4	4
実効税率変更に伴う積立金の増加	—	△13
当期純利益	1,860	1,831
当期変動額合計	1,527	△2,062
当期末残高	5,737	3,674
利益剰余金合計		
当期首残高	16,690	18,214
当期変動額		
剰余金の配当	△337	△385
別途積立金の積立	—	—
固定資産圧縮積立金の取崩	—	—
実効税率変更に伴う積立金の増加	—	—
当期純利益	1,860	1,831
当期変動額合計	1,523	1,446
当期末残高	18,214	19,660
自己株式		
当期首残高	△21	△22
当期変動額		
自己株式の取得	△0	△0
当期変動額合計	△0	△0
当期末残高	△22	△23
株主資本合計		
当期首残高	22,920	24,443
当期変動額		
剰余金の配当	△337	△385
当期純利益	1,860	1,831
自己株式の取得	△0	△0
当期変動額合計	1,522	1,445
当期末残高	24,443	25,889

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	657	386
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△270	△130
当期変動額合計	△270	△130
当期末残高	386	255
評価・換算差額等合計		
当期首残高	657	386
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△270	△130
当期変動額合計	△270	△130
当期末残高	386	255
純資産合計		
当期首残高	23,577	24,830
当期変動額		
剰余金の配当	△337	△385
当期純利益	1,860	1,831
自己株式の取得	△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△270	△130
当期変動額合計	1,252	1,314
当期末残高	24,830	26,144

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

- (1) 満期保有目的の債券
償却原価法（定額法）
- (2) 子会社株式及び関連会社株式
移動平均法による原価法
- (3) その他有価証券
 - ①時価のあるもの
決算日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)
 - ②時価のないもの
移動平均法による原価法

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- (1) 製品・仕掛品
個別法による原価法
(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定しております。)
- (2) 商品・原材料・貯蔵品
移動平均法による原価法
(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定しております。)

3. 固定資産の減価償却の方法

- (1) 有形固定資産（リース資産を除く）
建物（建物附属設備を除く）は定額法、建物以外については定率法を採用しております。
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3～50年
機械及び装置	4～7年
- (2) 無形固定資産（リース資産を除く）
定額法
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。
- (3) リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
なお、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
- (4) 少額減価償却資産
取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、事業年度毎に一括して3年間で均等償却しております。
- (5) 長期前払費用
均等償却

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（3年）による按分額を費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による按分額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。

5. 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

請負工事のうち、進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

6. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップ取引については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 金利スワップ取引

ヘッジ対象 変動金利の長期借入金等の金利変動リスク

(3) ヘッジ方針

金利変動リスクの回避並びに金融収支の安定化のため行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の判定を省略しております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理の方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【追加情報】

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)		当事業年度 (平成24年3月31日)	
建物	2,564	(2,561)	2,495	(2,494)
土地	460	(368)	460	(368)
計	3,024	(2,930)	2,955	(2,862)

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)		当事業年度 (平成24年3月31日)	
短期借入金	650	(650)	650	(650)
1年内返済予定の長期借入金	900	(900)	—	(—)
長期借入金	—	(—)	900	(900)
(株)愛工機器製作所の金融機関からの借入金				
1年内返済予定の長期借入金	72	(45)	72	(45)
長期借入金	121	(75)	49	(30)
計	1,743	(1,671)	1,671	(1,625)

上記のうち () 内書は工場財団抵当並びに当該債務を示しております。

※2 関係会社に係る注記

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	708	725
売掛金	3,026	4,913
支払手形	1,104	1,749
買掛金	742	1,018

3 偶発債務

下記子会社の金融機関からの借入金に対して債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
(株)愛工機器製作所	1,416	888
恵那愛知電機(株)	243	227
長野愛知電機(株)	4	1
蘇州愛知科技有限公司	—	700
計	1,663	1,816

※4 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	—	133
支払手形	—	877
設備関係支払手形	—	65

(損益計算書関係)

※1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上高	19,398百万円	20,784百万円
売上原価(仕入高)	5,646	6,894
受取利息	10	16
受取配当金	45	60
固定資産賃貸料	103	104
業務受託料	47	47

※2 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
発送費	412百万円	487百万円
給料手当	959	965
退職給付引当金繰入額	83	85
業務委託費	216	282
減価償却費	95	114
貸倒引当金繰入	0	0
おおよその割合		
販売費	44%	45%
一般管理費	56	55

※3 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
有形固定資産	一百万円	5百万円
製造経費	1	2
その他	0	—
計	1	7

※4 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
機械及び装置	一百万円	3百万円
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	0	—
計	0	4

※5 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
車両運搬具	—	0百万円
工具、器具及び備品	—	0
計	—	0

※6 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物	20百万円	1百万円
構築物	0	0
機械及び装置	3	1
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	4	1
計	29	5

※7 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	134百万円	131百万円

※8 期末たな卸高は収益性低下による簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	132百万円	133百万円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数(千株)	増加株式数(千株)	減少株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
自己株式				
普通株式	99	3	—	102

(注) 自己株式の増加3千株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数(千株)	増加株式数(千株)	減少株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
自己株式				
普通株式	102	2	—	105

(注) 自己株式の増加2千株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	181	142	39

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高の有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(単位：百万円)

	当事業年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	148	139	9

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高の有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	30	8
1年超	9	1
合計	39	9

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高の有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
支払リース料	47	30
減価償却費相当額	47	30

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額は、子会社株式5,867百万円、関連会社株式162百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は、子会社株式5,846百万円、関連会社株式162百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	181百万円	174百万円
退職給付引当金	1,614	1,443
その他	388	322
繰延税金資産小計	2,183	1,939
評価性引当額(△)	△195	△174
繰延税金資産合計	1,987	1,764
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	△111	△95
その他有価証券評価差額金	△250	△139
その他	△51	△38
繰延税金負債合計	△413	△274
繰延税金資産の純額	1,574	1,490

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率 (調整)	—	40.4%
交際費等永久に損金に算入されない項目	—	0.8
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	—	△0.8
住民税均等割	—	0.5
スケジューリング不能差異	—	0.1
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	—	5.5
その他	—	△0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	—	46.1

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.4%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは37.8%、平成27年4月1日以降のものについては35.4%にそれぞれ変更しております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が165百万円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が185百万円、その他有価証券評価差額金が19百万円、それぞれ増加しております。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	515円69銭	543円02銭
1株当たり当期純利益	38円65銭	38円04銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
当期純利益 (百万円)	1,860	1,831
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	1,860	1,831
普通株式の期中平均株式数 (千株)	48,151	48,148

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	24,830	26,144
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	24,830	26,144
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数 (千株)	48,149	48,147

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	TOTO(株)	273,250	170
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	402,550	165
		関西電力(株)	111,101	142
		九州電力(株)	101,520	119
		日本碍子(株)	96,679	114
		THAI COMPRESSOR MANUFACTURING CO., LTD.	220,654	76
		THAI MAXWELL ELECTRIC CO., LTD.	180,000	61
		東洋シヤッター(株)	125,444	55
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	17,162	46
		ダイハツディーゼル(株)	110,000	45
		東北電力(株)	46,431	43
		沖縄電力(株)	12,612	43
		その他43銘柄	1,435,929	506
		計	3,133,332	1,592

【債券】

		銘柄	券面総額(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	満期保有目的の債券	(株)三井住友銀行第13回無担保社債 (劣後特約付)	200	200
		計	200	200

【その他】

		種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (百万円)
有価証券	その他有価証券	譲渡性預金	—	3,300
		フリーファイナンシャルファンド	50,028	500
		日興CMF	50,000	500
		小計	—	4,300
投資有価証券	その他有価証券	証券投資信託受益証券2銘柄	3,032	18
		小計	—	18
		計	—	4,318

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	9,907	120	28	10,000	7,355	196	2,644
構築物	1,275	160	25	1,410	1,147	33	263
機械及び装置	9,810	227	267	9,770	9,041	372	728
車両運搬具	209	7	17	199	183	13	16
工具、器具及び 備品	5,052	171	282	4,941	4,661	201	279
土地	2,688	—	—	2,688	—	—	2,688
リース資産	65	14	—	80	28	14	51
建設仮勘定	1	458	392	66	—	—	66
有形固定資産計	29,010	1,160	1,013	29,157	22,417	833	6,739
無形固定資産							
ソフトウェア	76	0	0	77	41	15	35
電話加入権	5	—	0	5	—	—	5
リース資産	39	9	—	48	22	9	26
無形固定資産計	121	10	0	131	63	24	67
長期前払費用	76	—	8	67	23	9	43

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	80	1	0	1	81

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」については、一般債権に対する前期計上額の取崩しであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	1
預金	
当座預金	9
普通預金	5,407
定期預金	200
雑預金	1
計	5,618
合計	5,619

② 受取手形
相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
愛電商事(株)	671
東洋シャッター(株)	386
(株)オカノ	141
(株)愛工機器製作所	52
光電気産業(株)	41
その他	269
合計	1,562

期日別内訳

期日	金額(百万円)
平成24年4月	239
5月	480
6月	143
7月	521
8月	168
9月	8
合計	1,562

③ 売掛金
相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
中部電力(株)	2,810
愛電商事(株)	2,045
パラマウントベッド(株)	1,385
三菱重工業(株)	970
THAI COMPRESSOR MANUFACTURING CO., LTD.	527
その他	2,033
合計	9,772

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円) (A)	当期発生高 (百万円) (B)	当期回収高 (百万円) (C)	当期末残高 (百万円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{366}$
7,624	37,920	35,773	9,772	78.5	84.0

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

④ 商品及び製品

内訳	金額(百万円)
(電力機器)	
小形変圧器	363
中形・大形変圧器	483
その他機器	81
(回転機)	
小形モータ	29
住設機器	20
介護用機器	40
その他機器	36
合計	1,056

⑤ 仕掛品

内訳	金額(百万円)
電力機器	2,154
回転機	49
合計	2,203

⑥ 原材料及び貯蔵品

内訳	金額(百万円)
原材料	
電線	187
鋼材	57
絶縁材料	18
その他	1,013
計	1,276
貯蔵品	
消耗性工具・器具・備品	9
研究用材料	32
梱包用材料	12
その他	42
計	96
合計	1,373

⑦ 関係会社株式

内訳	金額(百万円)
(子会社株式)	
(株)愛工機器製作所	4,102
アイチエレクト(株)	1,510
その他	255
(関連会社株式)	
愛知金属工業(株)	56
その他	106
(その他の関係会社株式)	
中部電力(株)	318
合計	6,348

⑧ 支払手形
相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
アイチエレクトク(株)	1,087
愛電商事(株)	344
三愛電機(株)	322
ダイトーエムイー(株)	239
愛知金属工業(株)	196
その他	2,139
合計	4,330

期日別内訳

期日	金額(百万円)
平成24年4月	877
5月	1,595
7月	1,760
8月	80
10月	15
合計	4,330

⑨ 買掛金

相手先	金額(百万円)
日新電機(株)	639
(株)ユニマック	527
アイチエレクトク(株)	385
岐阜愛知電機(株)	258
電機資材(株)	206
その他	3,219
合計	5,238

⑩ 短期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)三井住友銀行	1,070
(株)三菱東京UFJ銀行	950
その他	300
合計	2,320

⑪ 設備関係支払手形
相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
TSUCHIYA(株)	60
愛電商事(株)	35
オザワ科学(株)	13
ワシノ商事(株)	10
明伸工機(株)	6
その他	18
合計	144

期日別内訳

期日	金額(百万円)
平成24年4月	65
5月	5
7月	61
8月	5
10月	5
合計	144

⑫ 退職給付引当金

内訳	金額(百万円)
退職給付債務	4,461
未認識数理計算上の差異	△455
合計	4,006

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、名古屋市において発行する中日新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.aichidenki.jp
株主に対する特典	なし

(注) 1. 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

2. 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社は、平成24年4月1日をもって、住友信託銀行株式会社及び中央三井アセット信託銀行株式会社と合併しました。これに伴い、下記のとおり、商号・住所等が変更となっております。

取扱場所 名古屋市中区栄三丁目15番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | | | |
|-----|--|-----------------|-------------------------------|--------------------------|
| (1) | 有価証券報告書
及びその添付書類
並びに確認書 | 事業年度
(第102期) | 自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日 | 平成23年6月29日
東海財務局長に提出 |
| (2) | 内部統制報告書
及びその添付書類 | 事業年度
(第102期) | 自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日 | 平成23年6月29日
東海財務局長に提出 |
| (3) | 有価証券報告書
の訂正報告書
及び確認書 | 事業年度
(第102期) | 自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日 | 平成23年7月5日
東海財務局長に提出 |
| (4) | 四半期報告書
及び確認書 | (第103期第1四半期) | 自 平成23年4月1日
至 平成23年6月30日 | 平成23年8月11日
東海財務局長に提出 |
| | | (第103期第2四半期) | 自 平成23年7月1日
至 平成23年9月30日 | 平成23年11月11日
東海財務局長に提出 |
| | | (第103期第3四半期) | 自 平成23年10月1日
至 平成23年12月31日 | 平成24年2月10日
東海財務局長に提出 |
| (5) | 臨時報告書 | | | |
| | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会
における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書 | | | 平成23年7月1日
東海財務局長に提出 |
| | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号（特定子会社の
異動）の規定に基づく臨時報告書 | | | 平成23年7月15日
東海財務局長に提出 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 6 月22日

愛知電機株式会社
取締役会 御中

名古屋監査法人

代表社員 公認会計士 足 立 仁 史 ㊞
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 魚 住 康 洋 ㊞

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている愛知電機株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、愛知電機株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、愛知電機株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、愛知電機株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

-
- ※ 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成24年 6 月22日

愛知電機株式会社

取締役会 御中

名古屋監査法人

代表社員 公認会計士 足 立 仁 史 ㊞
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 魚 住 康 洋 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている愛知電機株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第103期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、愛知電機株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- ※ 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】 内部統制報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の4第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成24年6月28日

【会社名】 愛知電機株式会社

【英訳名】 AICHI ELECTRIC CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 山 田 功

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 愛知県春日井市愛知町1番地

【縦覧に供する場所】 愛知電機株式会社 東京支社
(東京都中央区入船三丁目10番9号)

愛知電機株式会社 関西支社
(大阪市北区曾根崎一丁目2番6号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

当社取締役社長 山田 功は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して、財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成24年3月31日を基準日として行われており、評価にあたっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、当事業年度の財務報告に係る内部統制の評価計画に基づき、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社並びに連結子会社及び持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。

財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社並びに連結子会社10社及び持分法適用会社2社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、連結ベースの売上高を指標とし、その概ね2/3に達している事業拠点を重要な事業拠点といたしました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金、棚卸資産、買掛金、有形固定資産及び人件費に至る業務プロセスを評価の対象といたしました。さらに、財務報告への影響を勘案して、すべての事業拠点における重要性の大きい業務プロセスについては、個別に評価の対象に追加いたしました。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の2第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成24年6月28日

【会社名】 愛知電機株式会社

【英訳名】 AICHI ELECTRIC CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 山 田 功

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 愛知県春日井市愛知町1番地

【縦覧に供する場所】 愛知電機株式会社 東京支社
(東京都中央区入船三丁目10番9号)

愛知電機株式会社 関西支社
(大阪市北区曾根崎一丁目2番6号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役社長 山田 功は、当社の第103期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。